読み聞かせのまち　あげお

あげお子ども読書プラン

第２次上尾市子どもの読書活動推進計画

平成 28 年度～32 年度

上 尾 市 教 育 委 員 会

読み聞かせのまち あげお

目　　次

子どもの読書活動の推進
子どもの読書活動の支援体制

第１部　基本的な考え方

第１章　計画策定の趣旨

１　計画策定の目的　・・・・・・・・・・・・ １
２　子どもの読書に関する国及び県の動向　・・・・・・・・・・・・ ２
３　第１次計画期間における上尾市の現状と課題　・・・・・・・・・・・・ ３
（１）第１次計画期間における取組実施状況　・・・・・・・・・・・・ ３
（２）課題　・・・・・・・・・・・・10
４　計画の期間・対象　・・・・・・・・・・・・12

第２章　基本方針

１　子どもが読書に親しむための推進体制の整備　・・・・・・・・・・・・13
２　読書に親しむ機会の提供と環境の整備・充実　・・・・・・・・・・・・13
３　子どもの読書活動に関する情報提供の充実　・・・・・・・・・・・・13

第２部　具体的な取組　～読み聞かせのまち あげお～

第１章　子どもが読書に親しむための推進体制の整備

１　子どもの読書活動支援センターの役割　・・・・・・・・・・・・14
２　読書活動の推進（子どもの読書に関わる関係各課）　・・・・・・・・・・・・16
３　図書館・学校・学校図書館の連携　・・・・・・・・・・・・16
４　読み聞かせボランティア相互の情報交換　・・・・・・・・・・・・16
５　推進計画　・・・・・・・・・・・・17

第２章　読書に親しむ機会の提供と環境の整備・充実

１　図書館における取組　・・・・・・・・・・・・19
（１）図書館の役割　・・・・・・・・・・・・19
（２）資料の充実　・・・・・・・・・・・・19

（３）年代別サービス ・・・・・・・・・・・20
ア　乳幼児向けサービス ・・・・・・・・・・・20
イ　幼児・小学生向けサービス ・・・・・・・・・・・20
ウ　青少年向けサービス ・・・・・・・・・・・21
エ　図書利用に障害のある子どもへのサービス ・・・・・・・・・・・23
２　家庭における取組 ・・・・・・・・・・・23
３　地域における取組 ・・・・・・・・・・・24
（１）幼稚園・保育所・子育て支援センター ・・・・・・・・・・・24
（２）児童館・放課後児童クラブなど ・・・・・・・・・・・25
（３）児童文庫・自治会・読み聞かせボランティア ・・・・・・・・・・・25
４　学校における取組 ・・・・・・・・・・・26
（１）読書活動推進の取組 ・・・・・・・・・・・26
（２）学校図書館の整備 ・・・・・・・・・・・27
（３）朝の読書をはじめとする一斉読書などの取組 ・・・・・・・・・・・28
（４）「あっぴぃぶっくるセット本」・団体貸出本の活用 ・・・・・・・・・・・29
５　家庭・地域・学校をつなぐ取組 ・・・・・・・・・・・30
（１）「まちかど図書館」 ・・・・・・・・・・・30
（２）「読書パスポート」・「えほんのきろく」 ・・・・・・・・・・・30
６　推進計画 ・・・・・・・・・・・33

第３章　子どもの読書活動に関する情報提供の充実

１　各種パンフレット ・・・・・・・・・・・41
２　市広報紙 ・・・・・・・・・・・42
３　図書館ホームページ ・・・・・・・・・・・42
４　「読み聞かせのまちあげお 上尾市図書館」フェイスブック ・・・・・・・・43
５　「子どもの読書活動支援センター」ツイッター ・・・・・・・・・・・43
６　推進計画 ・・・・・・・・・・・44

資料編

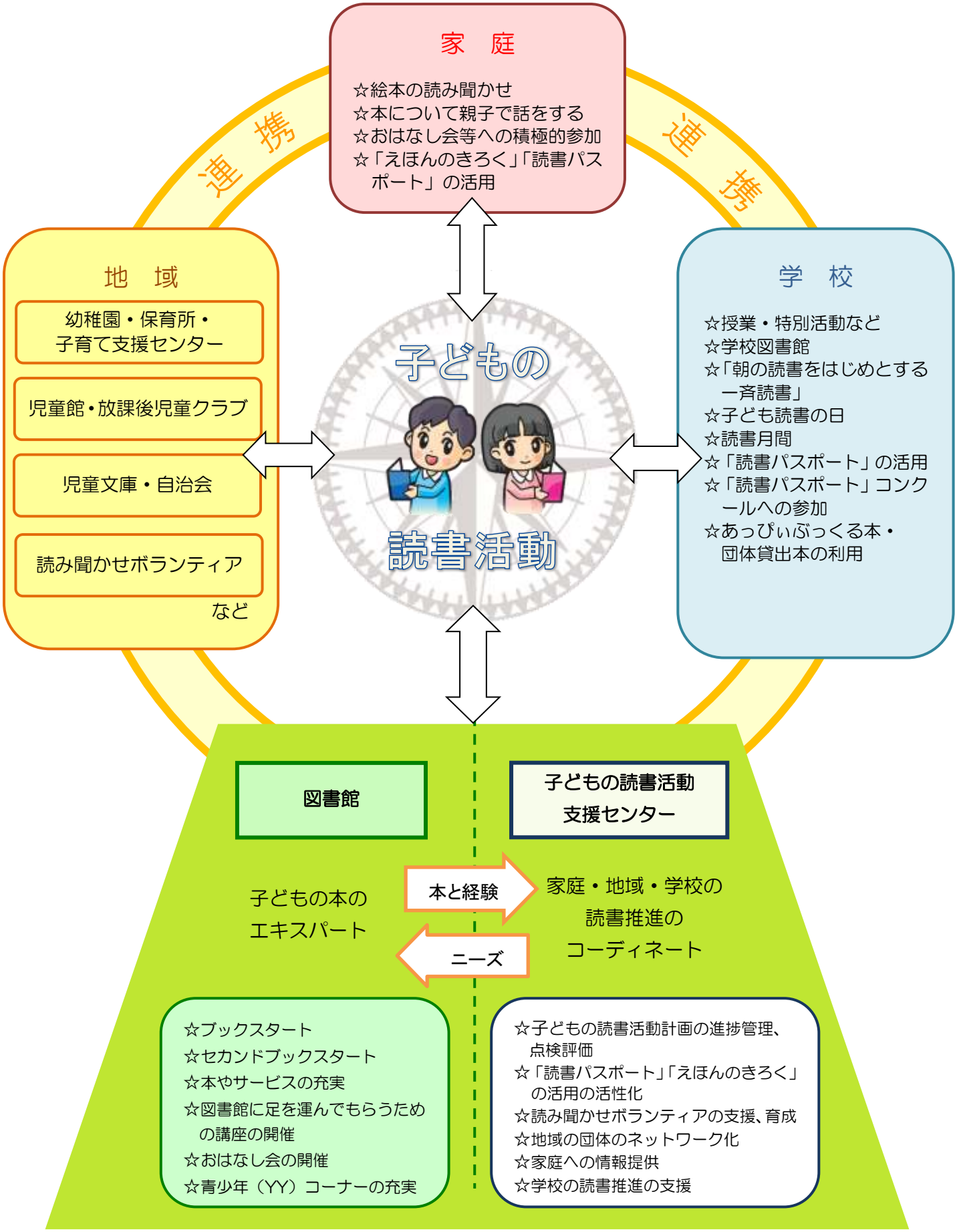
１　子ども読書活動優秀実践校・団体　文部科学大臣表彰 ・・・・・・・・・・・47
２　用語解説 ・・・・・・・・・・・48
３　アンケート結果から見る子どもの読書活動の現状 ・・・・・・・・・・・51

子どもの読書活動の推進

	乳幼児期	小学生期	中学生・高校生(青少年)期
子どもの読書活動支援センター 図書館	生涯にわたる読書活動の推進 絵本の時間 ブックスタート 赤ちゃんおはなし会	おはなし会 セカンドブックスタート（「読書パスポート」の配布・活用）	青少年向けサービスの充実
	魅力ある読書イベントの実施 「えほんのきろく」の配布 「おやこでえほんサロン」 各年齢層に合ったブックリストの作成・配布 「まちかど図書館」		
読み聞かせ等ボランティア	図書館・児童館等での絵本の読み聞かせ・おはなし会 「えほんのきろく」・「読書パスポート」事業に協力	学校等での出張おはなし会、授業での代読など	
家庭	読み聞かせ・親子で読書をする 親子で読んだ本の話をする 「えほんのきろく」・「読書パスポート」の活用		親子ともに読書をする 親子で読んだ本の話をする
幼稚園 保育所 子育て支援センター	本とのふれあい 絵本の読み聞かせ 「あっぴぃ ぶっくるセット本」団体貸出本の活用		
学校		本の読み聞かせ 家庭への啓発 各教科における図書の活用 読書指導と推薦図書の紹介 「朝の読書をはじめとする一斉読書」 「あっぴぃ ぶっくるセット本」・団体貸出本の活用 「読書パスポート」の活用	
児童館 児童文庫 放課後児童クラブ	本とのふれあい 絵本の読み聞かせ	おはなし会 「えほんのきろく」・「読書パスポート」事業に協力	

※本計画の対象年齢は0～19歳です。

子どもの読書活動の支援体制



第１部　基本的な考え方

第１章　計画策定の趣旨

１　計画策定の目的

子どもの読書活動は、言葉を学び読解力をつけるだけではなく、感性や知性を磨き、表現力を高め、豊かにします。子どもは本を読むと、その中に入り込み、登場人物と一緒になって行動し、喜怒哀楽を味わうことによって精神的に成長し、ほかを思いやる心や物事を深く考える力が身につきます。読書は、子どもが未来に向かって、たくましく生きる力を培うものです。

しかし現代の子どもたちは、インターネット、携帯電話や各種モバイル機器など情報通信機器の普及に加え、忙しさや興味・関心の多様化などから、特に年齢が高くなるにつれ、自発的に読書をする時間が減少しています。

このような社会情勢の中、上尾市では、読書は「楽しい」という思いが学年が上がってもそのまま続くように、すべての子どもが、あらゆる機会とあらゆる場所で自主的に読書活動を行える環境作りをしていくために、平成 23 年度から５年間を計画期間とする初めての「あげお子ども読書プラン(上尾市子どもの読書活動推進計画)」を策定し、家庭・地域・学校が連携して子どもの読書活動推進に努めてきました。

この５年間の取組を検証し、今後の課題を取り上げ、市全体でさらに充実・発展させるために平成 28 年度から５年間を計画期間とする「第２次あげお子ども読書プラン」を策定するものです。なお、この計画は「上尾市総合計画」と併せて平成 28 年度から５年間を計画期間とする「第２次上尾市図書館サービス計画」との整合性を図りながら、笑顔きらめく“ほっと”なまち あげおの図書館が目指す「読み聞かせのまち あげお」を実現するための具体的な施策を盛り込んだ計画とします。

２　子どもの読書に関する国及び県の動向

「子どもの読書活動の推進に関する法律」の施行（平成 13 年 12 月）を受け、平成 14 年８月には第１次「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」を策定し、おおむね５年間にわたる施策の基本的方向と具体的な方策を明らかにしました。平成 20 年には、第２次「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」を策定、平成 25 年５月には家庭、地域、学校を通じた社会全体における取組として、社会全体で子どもの自主的な読書活動の推進を図ることの重要性などを強調した第３次「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」を策定しました。

県でも平成 14 年２月策定の「彩の国教育改革アクションプラン」の中で、豊かな心をはぐくむ教育を推進する重要な柱として、子どもの読書活動の推進に努めています。平成 16 年には「埼玉県子ども読書活動推進計画」が策定され、平成 21 年には「埼玉県子ども読書活動推進計画(第２次)」、そして昨年の平成 26 年７月には、「埼玉県子供読書活動推進計画（第３次)」を策定しています。

また、平成 20 年６月には「図書館法」、平成 24 年 12 月には「図書館の設置及び運営上の望ましい基準」、平成 26 年６月には「学校図書館法」がそれぞれ改正され、子どもの読書活動の推進に関連する法整備も進められました。

【関連法律・計画】

☆「文字・活字文化振興法」

☆「子どもの読書活動の推進に関する法律」

☆第３次「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」

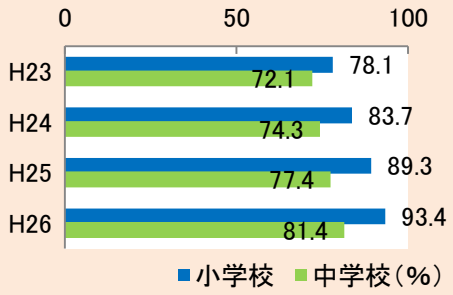
☆「埼玉県子供読書活動推進計画（第３次)」

３　第１次計画期間における上尾市の現状と課題

（1）第１次計画期間における取組実施状況

平成 23 年度から 26 年度までの「第１次子どもの読書活動推進計画」の子どもの読書活動推進に関する、関係各課の取組の実施状況は以下の通りです。

Ⅰ　子どもの読書環境の整備充実

主体	取組	目標	実施状況
保育所	① 保育所内の図書の充実	絵本の冊数の増冊、内容の充実を図る	保護者向けの貸出図書の充実も含め冊数の増冊を図った
教育総務課	② 学校図書館図書標準（P.48　注1）の達成	学校の標準冊数達成を目指す	年度末標準冊数達成率 
	③ 学校図書館の情報化	市内小中学校の蔵書のデータベース化。また、貸出返却などの管理について電算化する	平成 24 年度に学校図書管理システムを導入。以降、蔵書管理、貸出返却管理などを同システムにて電算運用
指導課	④ アッピースマイル学校図書館支援員（P.48　注2）の増員	各小中学校の学校図書館の一層の充実を図り、読書活動を推進するため、支援員の増員に向けて検討を進める	学校図書館の充実と読書活動の推進のためアッピースマイル学校図書館支援員を小学校22校全校に週5日1名を配置、中学校11校には各校週1日、1名を配置
学校	⑤ 朝の読書をはじめとする一斉読書や読み聞かせ	内容の充実を図る	全校一斉の読書活動については、上尾市内小・中学校全校が実施した。読み聞かせについては、小学校全校で実施

主体	取組	目標	実施状況
学校	⑥ 長期休業中の学校図書館の開放	内容の充実を図る	読み聞かせや図書の貸し出しなどによる夏季休業中の小・中学校の平均開館回数は 21.2 日、各校の期間内の平均利用人数は 659.5 人。冬季休業中の小・中学校の平均開館回数は 4.3 日、各校の期間内の平均利用人数は 76.6 人
	⑦ 読書活動の推進	児童生徒の読書量や読書傾向を踏まえた上で、さらなる読書活動の推進を図る	司書教諭やアッピースマイル学校図書館支援員の定期的な研修会で読書活動を推進することや校長会議、教頭会議で長期休業中の学校図書館活用状況について報告するなど、読書活動を推進
指導課	⑧ 司書教諭等研修会	研修内容の充実を図る	電子台帳の管理の仕方、司書教諭の仕事、学校図書館の活用の充実、新聞活用について、年間3回の研修会を実施
	⑨ 学校図書館支援員の研修会など	研修内容の充実を図る	アッピースマイル学校図書館支援員の資質向上と業務内容の周知、読み聞かせのスキルアップ、図書の分類と配架などについて、年間 13 回の研修会を実施し、学校図書館の充実を図った
児童館	⑩ 児童館での読み聞かせやおはなし会	子どもたちに絵本や紙芝居に親しんでもらうよう、実施回数を増やす	青少年育成推進員による大型紙芝居などを利用した読み聞かせや、おはなし会を実施

主体	取組	目標	実施状況
図書館 健康増進課など	⑪ 図書館以外の場所でのおはなし会	関係各課の連携を密にし、出向く場所や回数を増やすよう努める	図書館 ・平成 26 年度は「読書パスポート（P.30）」配布の開始にともない、市内 22 小学校において、小学 1 年生を対象に、図書館職員、学校、アッピースマイル学校図書館支援員、読み聞かせボランティアが連携して、「読書パスポート」配布時に絵本の読み聞かせを実施 ・子どもの読書活動支援センターと出張型読み聞かせボランティア　AYY レンジャーが学校、子どものサークル、公民館活動、関係施設などでのおはなし会を開催し、「読書パスポート」の活用を図った 健康増進課 「親子のつどい」で手遊びや絵本の読み聞かせを実施
図書館 健康増進課	⑫ ブックスタート事業 （P.48　注3）	・事業を継続する。 ・ブックスタート事業から幼児期の読書につなげる啓発事業を開催する	図書館・健康増進課 ・平成 23～26 年度まで4か月児健診実施時に、2冊の絵本をプレゼントし、同時に絵本の読み聞かせを実施 ・ブックスタートの4か月児から「えほんのじかん」に来るようになる2歳児までの期間の読書の推進活動として、「あかちゃんおはなしかい」を開催。平成 23 年度に 1 回、平成 24 年度に4回、平成 25 年度からは毎月1回実施している。内容は絵本のよみきかせ、わらべうた、手遊びである 子どもの読書活動支援センター 1 歳から未就学児とその保護者の本を通したふれあいや保護者同士の交流のため、月1回「おやこでえほんサロン」を東保健センターで開催

主体	取組	目標	実施状況
図書館 学校 児童館など	⑬ 読書環境の整備・充実	引き続き利用しやすいように読書環境の整備・充実に努める	図書館 図書館本館、分館、公民館図書室において、蔵書の充実、読書推進のための展示やリスト作り、図書館ホームページへの掲載などを実施 学校 児童・生徒が学校図書館を利用しやすいように、司書教諭やアッピースマイル学校図書館支援員の定期的な研修会で各校の取組や利用促進に関する実践活動などについて共有し、環境整備の充実に努めた 児童館 児童館図書室では自由に絵本や紙芝居、そのほか児童書を読む部屋として読書環境の充実を図った
図書館	⑭ 資料の選定・収集	魅力ある資料収集のため、日々の研さんに努める	良書を判断する基準や技術を身に着けるために、県主催の児童奉仕研修会に参加するほか、ブックフェアや民間主催の講座などに自主的に参加
	⑮ 図書館員の資質向上	引き続き、研修への積極的参加に努める	子どもの本の紹介や子どもの相談に的確に対応できるように、県主催の児童奉仕研修会に参加
	⑯ 各年代のコーナーの充実	赤ちゃん絵本コーナーの拡充、ヤングアダルトコーナーの充実を図る	赤ちゃん絵本コーナー（本館１階）や青少年（YY）コーナー（本館・分館/計5館）(P.48　注4)を設置し、蔵書の充実や各種展示、情報紙を発行
	⑰ 対象年齢に合ったおはなし会	０～２歳向けのおはなし会を開催するなど、対象を細分化して開催する	４か月健診時のブックスタート、０～２歳児の「あかちゃんおはなし会」、１～６歳児の「おやこでえほんサロン」、２～６歳児の「えほんのじかん」、４歳児～の「おはなし会」を開催

主体	取組	目標	実施状況
図書館	⑱ 子ども対象事業の企画の充実	・企画内容のさらなる充実を図る ・分館などでの子ども対象事業の開催も検討する	・本館を中心に、図書館の仕組みを学べるようなイベントや読書や科学に親しめるようなイベントを開催 ・子どもの読書活動支援センターでは年間を通じて子ども対象事業を企画、多くの参加を得ている
	⑲ 中学生・高校生の参加・企画・運営するイベント	・中学生・高校生が企画・編集する図書館情報紙の作成を検討する ・中学生・高校生の企画によるイベントの開催を検討する	実施方法について、検討
	⑳ 障害のある子どもたちの図書館利用支援	・点字資料や録音資料、対面朗読などの利用促進に努める ・読むことに困難を抱えている子どもたちの支援を行う ・施設のバリアフリー化を図り、障害のある人も利用しやすい環境作りをする	以下のことについて情報収集・検討に努めた ・点字資料や録音資料、対面朗読などの利用促進 ・読むことに困難を抱えている子どもたちの支援 ・障害のある人も利用しやすい環境作り
	㉑ 外国語の資料収集	さまざまな言語の資料収集に努める	外国語の絵本や小説を収集
	㉒ 電子図書などの研究	電子図書など新しい形態の図書の今後の可能性などを研究する	・中高生の読書傾向などの情報収集に努め、お勧め本リストなどを図書館ホームページに掲載し、インターネット上でも気軽に情報にアクセスできるようにした ・図書館ホームページに無料で見られる電子書籍のサイトへのリンクを貼った

Ⅱ 家庭・地域・学校の連携

主体	取組	目標	実施状況
図書館	㉓ 「（仮称）子どもの読書活動支援センター」の開設	家庭・地域・学校と図書館の連携がスムーズに進むように、図書館内にその核となる「（仮称）子どもの読書活動支援センター」を開設する	・平成24年7月に上尾市立富士見小学校図書室内に「子どもの読書活動支援センター（通称：あっぴぃ　ぶっくる）（P.14）」を開設 ・連携を推進するため、さまざまな事業を展開
	㉔ 学校への文庫セットの団体貸出（P.48 注5）	・文庫セットの種類を増やす ・貸出回数を増やす ・PRに努める	・あっぴぃ　ぶっくるセット本事業（P.29）として、小学校 23 セット（低・中・高各 30 冊で1セット）、幼稚園（毎回 30 冊を季節にあわせて選ぶ）、中学校 12 セット（テーマごとに各 30 冊）を用意し、2か月単位で学校間を巡回 ・調べ物セットは学校の要望に応じて不定期で配送
	㉕ 各施設や地域ボランティアへの団体貸出	・学校や地域ボランティアへの団体貸出をさらに充実させる ・保育所や幼稚園へ団体貸出の利用を呼びかける	・団体貸出については、司書教諭への研修、アッピースマイル学校図書館などにリストを渡すなどして PR につとめている ・学校の要望にあわせて必要な本をまとめて貸し出している
	㉖ 読み聞かせ講座への協力	司書教諭や学校図書館支援員、学校の読み聞かせボランティアを対象とした読み聞かせ講座に協力する	・学校図書館支援員には、年間を通じ指導課と協力して研修会を開催 ・中央小学校に出向き、朝読書ボランティアに研修会を実施 ・市政出前講座に参画
	㉗ 児童文庫や子どもの読書活動に関わる団体への補助金の交付	児童文庫のほか、子どもの読書活動に関わる団体へ補助金を交付する	・児童文庫のほか、子どもの読書活動に関わる団体へ補助金を交付し、読書活動を推進 ・各種交付金についての情報提供

Ⅲ 子どもの読書活動の普及・啓発

主体	取組	目標	実施状況
図書館	㉘ 「子ども読書の日」（P.49 注6）などにちなんだ事業の開催	子どもの読書活動について、市民の関心と理解を深めるための事業を関係各課と連携のうえ実施する	・「いつでもどうぞのおはなし会」（H26.4.20）⇒「子ども読書の日」にちなんで、日ごろ図書館本館・分館・公民館図書室でおはなし会をしているボランティアが本館に集い、一日中おはなし会を開催 ・「子ども読書の日」を中心に、前年度に購入した資料の中からおすすめ本を展示し、さらにその中から厳選したリストを作成し、配布 ・本に関するクイズ形式の本展示
学校	㉙ 「子ども読書の日」に関わる取組	取組の充実を図る	全ての小・中学校で「子ども読書の日」の趣旨説明を児童生徒に行い、期間中の一斉読書については、全ての小・中学校で実施した。また、読み聞かせについては全ての小学校で実施した。図書館の利用指導も実施
図書館 健康増進課	㉚ 保護者やこれから親になる人へ読み聞かせや読書の重要性の啓発	母子手帳配布時や妊婦教室のときなどにブックスタートの案内やパンフレットを作成・配布する	図書館 妊娠時への取組にはまだ着手できていない 健康増進課 母子手帳配布時及び妊婦教室でのブックスタートの案内は未実施
図書館	㉛ 年齢ごとのブックリストの作成	小学生や中学生、高校生向けのブックリストも作成・配布する	・対象別の絵本リストを作成し、配布 ・小学生には「読書パスポート」の中でおすすめ本を紹介 ・中高生向けには、ホームページでお勧め本の展示リストを掲載

（2）課題

関係各課の取組にも見られるとおり、各課での実施状況は概ね、平成 27 年度までの目標を上回るものとなっています。特に、以下の３施策が平成 24 年度に行われたため、学校の読書環境が整い、学校と図書館の連携は大幅に進みました。

- 図書館機能の一部である、子どもの読書活動支援センターの開設と事業の展開
- 学校図書館管理システム（LS@SCHOOL）の小中学校への導入
- 市内小学校全校へのアッピースマイル学校図書館支援員１校１人配置

現在、子どもの読書活動支援センターが中心となって、図書館と学校、読み聞かせボランティアと学校が連携し、「読書パスポート」事業（P.30）や、「あっぴぃ ぶっくるセット本」事業（P.14）など、読書推進のためのさまざまな施策が展開されています。

今後は、市図書館の蔵書を学校端末で貸し出せるようにするシステムを検討したり、図書館の学校用調べ物貸出本を、図書館と学校で選書するなど、更なる連携を進めます。

また、現在、市図書館では、年間約 153,000 冊(平成 26 年度)の０～12 歳の貸し出しがあります。現在の０歳～12 歳の上尾市の子どもたちの数は 25,159 人(平成 27 年４月１日現在)、一人当たり年間貸出数は 6.09 冊です【平成２６年度における県内市町村立図書館での児童書の総貸出冊数は 12,714,718 冊、県内０歳から 12 歳の１人当たりの年間貸出冊数は 15.7 冊】**＜表１参照＞**。平成 26 年度に「読書パスポート」を市内小学生に配布し、おはなし会などの関連事業が増えたことに伴い、小学生（６～12 歳）の貸出冊数が大幅に増えました**＜表１･３参照＞**。

しかし、青少年図書については蔵書冊数も約 16,000 冊、13～19 歳の一人当たり年間貸出数は 2.03 冊です**＜表２参照＞**。中・高校生の読書離れが問われる中、中学校では朝読書の時間が設けられるなど、さまざまな取組が行われています。図書館では、今後も青少年向けの本を充実させることはもちろん、市内中・高校と連携を図り、生涯を通じて読書の楽しさを伝える事業を行っていくことが必要です。

表１　上尾市図書館の状況

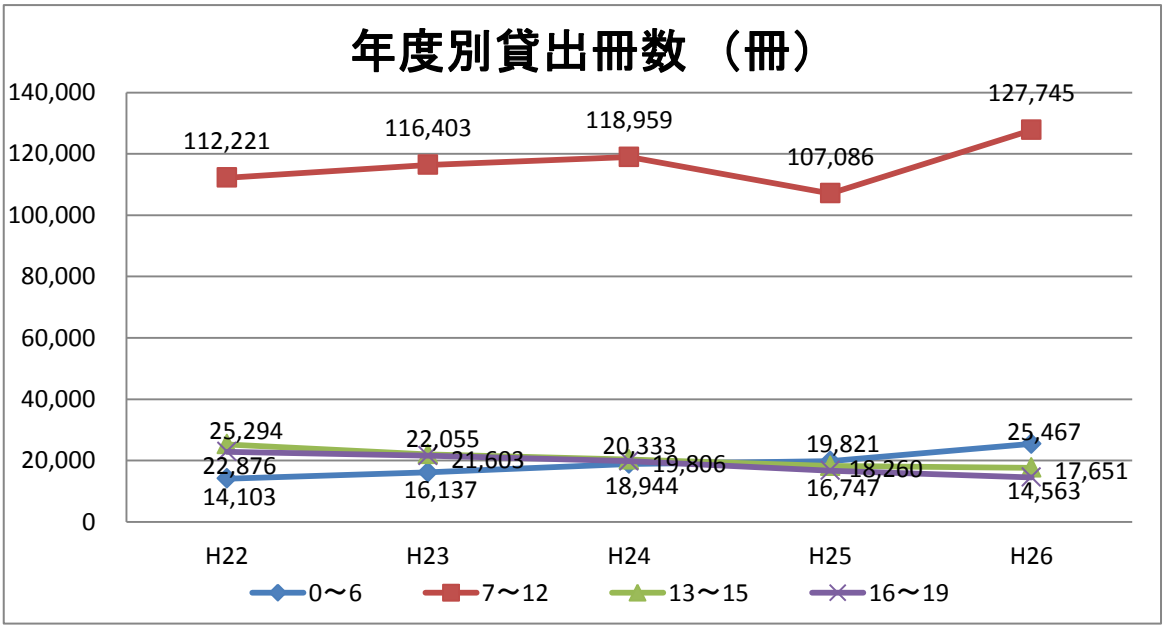
年度	年少人口（０歳～12歳）	児童書状況				市内図書館おはなし会	
		児童書数	１人当たり冊数	貸出冊数 ()は０歳～12 歳	１人当たり貸出冊数 ()は０歳～12 歳	延べ回数	延べ人数
平成 22	26,943	166,884	6.19	396,223 (126,324)	14.7 (4.69)	395	1,732
23	26,414	168,362	6.37	391,372 (132,540)	14.9 (5.02)	377	1,621
24	25,854	165,459	6.39	386,932 (137,903)	15.0 (5.33)	400	1,768
25	25,575	166,579	6.51	365,024 (126,907)	14.3 (4.96)	402	1,540
26	25,159	168,170	6.68	376,280 (153,212)	15.0 (6.09)	447	3,018

表２　上尾市図書館の青少年図書状況

年度	年少人口（13 歳～19 歳）	青少年図書状況			
		青少年図書数	１人当たり冊数	13 歳～19 歳の貸出冊数	１人当たり貸出冊数
平成 22 年	15,223	11,454	0.75	48,170	3.16
23	15,327	12,455	0.81	43,658	2.84
24	15,464	13,463	0.87	40,139	2.59
25	15,718	14,247	0.90	35,007	2.22
26	15,812	15,243	0.96	32,214	2.03

表３　上尾市図書館年度別年齢別貸出冊数

年度	未就学児（0～6 歳）	小学生（7～12 歳）	中学生（13～15 歳）	高校生以上（16～19 歳）
平成 22 年	14,103	112,221	25,294	22,876
23	16,137	116,403	22,055	21,603
24	18,944	118,959	20,333	19,806
25	19,821	107,086	18,260	16,747
26	25,467	127,745	17,651	14,563



また、子どもの年齢や興味に応じた読書に関する情報を、情報紙やフェイスブック、ツイッターなどさまざまな情報伝達手段で、よりスピーディーに親しみやすく提供していく必要があります。今後は、子どもがより簡単に読みたい本にたどり着けるように、子ども向け図書館ホームページの開設を検討します。

４　計画の期間・対象

この計画の期間は平成 28 年度（2016 年度）から平成 32 年度（2020 年度）までの５年間です。なお、図書館のあり方、社会情勢の変化などに応じて計画の見直しをします。

計画の対象は、おおむね 19 歳以下とします。

第２章　　基 本 方 針

読み聞かせのまち あげお
～ 生涯を通じて本に親しむ礎を築きます ～

１　子どもが読書に親しむための推進体制の整備

「読み聞かせのまち あげお」の実現に向け、上尾市子どもの読書活動支援センター（あっぴぃ ぶっくる）がコーディネーターとなって、家庭や地域、学校、図書館の連携・協力を進め、子どもの読書活動の推進体制を整備していきます。

２　読書に親しむ機会の提供と環境の整備・充実

上尾のすべての子どもを本好きにするために、市のいたる所でいろいろな人がさまざまな機会に読み聞かせを行い、子どもと本との出合いを応援するまち、それが「読み聞かせのまち あげお」です。

家庭・地域・学校が力をあわせて、子どもの読書環境の整備につとめ、「読み聞かせのまち あげお」をつくります。

３　子どもの読書活動に関する情報提供の充実

あらゆる年代の子どもたちが生涯にわたり喜びをもって読書を続け、より深めていけるよう、本や読書活動に関する情報を収集し、タイムリーに提供します。

また、子どもたちだけでなく子どもを取り巻く大人たちに、子どもの読書活動の大切さを理解し、関心を高めてもらうよう情報提供をしていきます。

第２部　推進のための具体的な取組
～読み聞かせのまち あげお～

第１章　子どもが読書に親しむための推進体制の整備

１　子どもの読書活動支援センターの役割

市の読書活動推進のコーディネーターとして、平成 24 年７月、図書館機能の一部である「子どもの読書活動支援センター（通称：あっぴぃ ぶっくる（P.49 注７）」が、富士見小学校図書室内にオープンしました。家庭・地域・学校と図書館の連携をスムーズに進めていくため、それぞれの橋渡しを行っています。

家庭・地域へ、本に関する情報の収集・提供や、図書館職員の派遣、講演会の開催などを行い、これらの連携を推進しています。また、地域の読書普及活動の担い手となる読み聞かせボランティアの養成・支援や活動場所の確保を行います。また、読み聞かせボランティアグループの後継者の育成を援助するなど、グループ運営も支援します。

平成 27 年７月に読書離れが懸念される小学校高学年・中学校・高校の児童生徒を対象に行ったアンケート結果（Ｐ.５１　資料編「１　アンケート結果から見る子どもの読書活動の現状**（以下、「アンケート結果」と表記）**」参照）でも、市内図書館に来ない子どもたちは小学５年生が 17 ㌫、中学２年生が 44 ㌫、高校２年生は 49 ㌫と多く、年齢があがるに従い、図書館に来ない子どもたちが増えていく傾向があることがうかがえます。そこで、図書館に来ない子どもたちに図書館に関心をもってもらい、読書に興味をもっていない子どもたちにも早い時期から本の魅力を感じてもらうためののしかけづくりを図書館と協力して行っていくことも、子どもの読書活動支援センターの役割のひとつです。

加えて、支援センターは、学校への本の貸し出し、アッピースマイル学校図書館支援員への助言、研修会への講師派遣など、学校図書館支援センターの機能も含んだものです。また、今学校で子どもたちが学習している内容に関連する本を集めて図書館に展示し、児童・生徒や保護者に貸し出すなど、学校と図書館をつなぐパイプ役として、それぞれの読書活動の活性化を図っていきます。

今後も、子どもの現状を把握し、有効な読書推進施策を図り、上尾の子どもたちの読書環境の整備につとめます。

あっぴぃ ぶっくる

家庭・地域・学校の読書推進のコーディネーターとして
上尾市のすべての子どもを
本好きにするためのしかけづくりをします！

読み聞かせのまち あげおの 実現に向けて・・・

☆「読書パスポート」「えほんのきろく」の利用をさらに向上させます。
☆学校の授業に関連する本などの展示を図書館で行うなど、学校と図書館のパイプ役をつとめます。
☆家庭・地域・学校の本や読書活動に関するニーズを収集し、図書館の児童サービスの向上につなげます。

地域に向けて・・・

☆「読書パスポート」「えほんのきろく」の利用をさらに向上させます。
☆児童文庫や、子どもの読書に関する活動を行う団体に、補助金を交付します。
☆ボランティアの養成や資質向上のための講習会を年間を通じ、行っています。
☆子どもの本に関するボランティアの紹介や、ボランティアとボランティアを必要としている団体などとボランティアの橋渡しをします。
☆おはなし会の組み立て方、団体の運営方法など、ボランティアにアドバイスします。

家庭に向けて・・・

☆「読み聞かせに向く本」「学校の先生が選んだ本」「中学生が選んだ本」など、いろいろな切り口の本のリストを作成・配布します。
☆児童・生徒や保護者などからの読書相談をお受けします。
☆ブックスタート期の赤ちゃんから青少年までの、子どもの本に関する催しを行います。
☆「おやこでえほんサロン」を開催し、絵本を囲んでの乳幼児と保護者の楽しいひと時を提供します。
☆市内で開催されるおはなし会などの情報を収集し、発信します。

学校に向けて・・・

☆学級文庫用の本（あっぴぃ ぶっくるセット本）を学校間で巡回させ、学校や学校図書館の充実を図っています。
☆朝の読書の時間や学校の授業などに読み聞かせや本の紹介を行い、魅力的な授業展開の応援をしています。

２　読書活動の推進（子どもの読書に関わる関係各課）

第１次計画期間において関係各課などの取組が示され、それぞれ成果が見られました。また、第２次計画策定にあたり、各課の実状をお互いに認識するまでに至りました。

市政出前講座に図書館が参画するなど各課の連携が見られたり、家庭教育推進事業の一貫としての講演会に、子どもの本に関する内容が組み入れられたりと各課の枠を越えた取組も行われています。

今回の計画においては「（仮称）子ども読書活動推進連絡会」を設置し、図書館をはじめとする読書活動推進に係る関係各課で取り組みの成果と課題を検証していきます。また、連絡会を通して各課の連携協力関係を築き、取組のさらなる発展と課題の解決に努めていきます。

３　図書館・学校・学校図書館の連携

子どもの読書活動の推進に関して特に中心的な位置づけとなるのが図書館・学校・学校図書館です。現在、司書教諭研修やアッピースマイル学校図書館支援員研修に、子どもの読書活動支援センター職員が出席し連絡調整を行っていますが、今後はこれをさらに進めて「（仮称）図書館・学校・学校図書館連絡会」を設置し、図書館と学校の連携の強化を図ります。

学校での読書教育・図書館教育を充実させていくための方策や、あっぴぃ ぶっくるセット本（Ｐ.29 参照）の選書や利用について、協議します。

毎年授業や学校行事などで必要とされる図書の確保や、季節的に需要が高まる資料の購入についても、三者が調整を図り、連携を図ることで、需要に応えることができ、市全体の図書購入費を効果的に使うことにつながります。

４　読み聞かせボランティア相互の情報交換

図書館では読み聞かせボランティアグループによるおはなし会が盛んに行われています。子どもの読書活動支援センターでは、市内のあちこちに出向いておはなし会を行うＡＹＹ（あげおよむよむ）レンジャー（P.49 注８）を育成・支援しており、絵本の読み聞かせ・科学絵本・アニマシオン（P.49 注９）・朗読などそのジャンルも多岐にわたっています。

また、小学校では学校応援団による読み聞かせ、児童館でもボランティアによる読み聞

かせや紙芝居の上演などが定期的に行われるなど、市民によるボランティアの活躍は読書活動推進になくてはならないものです。

子どもの読書活動支援センターでは、市内で活動するボランティアのスキルアップのために講演会や講座を行っています。今後はよりきめ細かなボランティアの支援を図っていくため、「（仮称）読み聞かせボランティア館連絡会」を設立し、ボランティア相互の情報の交換や共有をし、それぞれの活動の充実やスキルアップを図ります。

５　推進計画

	取組	目標（平成 32 年度）	施策	主体
子どもの読書活動支援センターの役割	家庭・地域・学校の連携のコーディネート	家庭・地域・学校と図書館の連携がスムーズに進むように、コーディネートを行う	子どもの本や読書活動についての調査・研究・公表を行う	図書館（子どもの読書活動支援センター）
			学校と図書館のパイプ役をつとめる	
			家庭・地域・学校の本や読書活動に関するニーズを収集し、図書館の児童サービスの向上につなげる	
			子どもの本に関するボランティアの紹介と、それを必要とする団体などとの橋渡しをする	
		＜家庭への支援＞ 子どもや、子どもを取り巻く大人たちに読書の楽しさを普及する	本に関する情報を収集・提供する	
			子どもや青少年向け読書イベントを開催する	
			保護者向け読書講演会や講座を開催する	
		＜地域への支援＞ 読み聞かせボランティア、家庭児童文庫や子どもの読書活動推進団体を支援し、	読み聞かせボランティア養成や資質向上のための講座を開催する	
			読み聞かせボランティアの活動場所を確保する	
			読み聞かせボランティアへの本に関するアドバイスを行う	

子どもの読書活動支援センターの役割	家庭・地域・学校の連携のコーディネート	これらと連携して地域とともに「読み聞かせのまち　あげお」を実現させる	家庭児童文庫の支援を行う	図書館（子どもの読書活動支援センター）
			子どもの読書活動推進団体への支援を行う	
		＜学校への支援＞ 学校や学校図書館の充実を図り、朝読書や読書タイム、学校の授業で読み聞かせや本の紹介を行う	あっぴぃ　ぶっくるセット本事業の円滑な運営を行う	
			アッピースマイル学校図書館支援員研修会への講師派遣や助言、講師の紹介	
			学校主催の読み聞かせボランティア初心者講座などへ講師を派遣する	
			学校に出向いての読書イベントを開催する	
読書活動の推進（子どもの読書活動に関わる関係各課）	（仮称）子どもの読書活動推進連絡会の開催	図書館、読書活動推進に関わる関係各課で、（仮称）子どもの読書活動推進連絡会を開催する	連絡会を開催する ・連絡会の設置 ・子どもの読書活動推進計画の進捗状況の把握	
図書館・学校・学校図書館の連携	（仮称）図書館・学校・学校図書館連絡会の開催	図書館・学校・学校図書館連絡会を開催する	連絡会を開催する ・連絡会の設置 ・司書教諭と図書館司書との情報交換 ・学校図書館と図書館との連携	
読み聞かせボランティア相互の情報交換	（仮称）読み聞かせボランティア連絡会の開催	読み聞かせボランティア連絡会を開催する	連絡会を開催する ・連絡会の設置 ・読み聞かせボランティア相互の交流や情報交換 ・スキルアップ	
			読み聞かせボランティア養成や資質向上のための講座を開催する	
			読み聞かせボランティアの活動場所を確保する	

第２章　読書に親しむ機会の提供と環境の整備・充実

１　図書館における取組

（１）図書館の役割

図書館では、子どもたちは自由に本を選び読書を楽しむと同時に、自ら必要な情報や本にたどりつく方法を学ぶことができます。また保護者は、子どもに読ませたい本を選んだり、子どもの読書などについて職員に相談したりすることができます。

図書館は「読み聞かせのまち あげお」を豊富な「本」と本に関する「経験」で支える「子どもの本のエキスパート」です。図書館は、子どもが本を通して心豊かな成長を遂げることを願います。

公共図書館の主な役割は以下のものです。

①子どもに対するサービスを充実させるために、必要なスペースを確保すること
②子ども・青少年用図書を収集・提供すること
③子ども・青少年の読書活動を推進のために読書相談や読み聞かせなどを実施すること
④情報通信機器の整備などによる新たな図書館サービスの提供について検討すること
⑤学校などの教育施設との連携の強化に努めること

上尾市図書館では、子どもの読書活動支援センターと図書館児童担当が中心となって、これらの役割を担っていきます。

（２）資料の充実

上尾市図書館・分館・公民館図書室の蔵書の合計は平成 26 年度末に 569,759 冊であり、そのうち児童書（青少年含む）は 184,417 冊で蔵書合計に占める割合は約 32.4 ㌫です。

乳幼児から小学生向けの絵本や読み物などについては、長く読み継がれ評価の定まっている基本図書や、子どもたちが大好きで人気がある本を、常に開架スペースに置き、子どもたちがいつでも利用できるようにします。

また、新たに刊行される本の中にも、現代の子どもたちの心をひきつけ、子どもたちから支持されるものが数多くあります。それらの本は時代を反映し、今の時代を生きる子どもたちの感性に符合する本です。これらの本も収集します。

利用者の需要や児童向け書籍の出版状況を把握することにつとめ、それを選書（本を購入する際に、司書が実際に読み、内容を確認して選ぶ作業）に反映させることにより、利用者にとって魅力ある資料構成に努めていきます。

調べ物学習などのレファレンスブックは情報が古くなるのが早く、買い替えが十分であるとはいえない状況です。子どもの知的欲求を満たす魅力ある資料の収集に努めます。

読み物、調べ物、科学の本など、あらゆるジャンルの本をバランスよく収集し、図書館に来るすべての子どもたちを満足させられる資料構成を目指します。

また、保護者や読み聞かせボランティアなど、子どもを取り巻く大人たちも図書館児童室には多く訪れることを考え、絵本や子どもの本を選ぶ際に参考となる本なども子どもの本の近くに置き、本選びの参考にしてもらえるようにします。

（３）年代別サービス

幼児・小学生では全国的に見て、読書習慣が定着していることがうかがわれます。しかしその一方で、アンケート結果からは、５月の１か月間に１冊も本を読まなかった不読者の割合は、年齢が上がるにつれて増加していることもうかがえます。そのため今後は特に青少年サービスの充実が必要です。

中学生・高校生の本については、アンケート結果からもうかがえるように、さまざまなニーズがあります。そこで、上尾市図書館の資料のテーマは、思春期世代の特性やアンケート結果をふまえ、幅広いテーマの資料をバランスよく収集します。

ア　乳幼児向けサービス

乳児のころから本が身近にあり、本をとおして親と楽しい時間を持ってほしいという目的で、ブックスタート事業を行っています。そしてその世代を対象に、「あかちゃんおはなし会」や「おやこでえほんサロン（子どもの読書活動支援センター主催）」を開催し、乳幼児をもつ保護者に手遊びやわらべ歌をまじえて乳児と遊びながら口承文芸を覚えてもらう機会を作ったり、絵本の読み聞かせを行ったりします。また母親同士の交流を図ったり、乳児が興味を持つ絵本の紹介、絵本選びに関する相談に応じたりします。

イ　幼児・小学生向けサービス

現在すべての館で幼児、小学生向けに、おはなしボランティアや読み聞かせボランティアの協力のもと、絵本やおはなしと子どもとを結びつけるよう、定期的に「おはなし会」や「絵本の時間」を開催しています。また、より多くの子どもに来館してもらえるよう、映画会、夏休み事業などを開催しています。平成 26 年度の「読書パスポート」の市内小学生への配布と、平成 27 年度の未就学児への「えほんのきろく」の配布と関連するおはなし会など読書イベントの増に伴い、小学生以下の子どもたちの図書館利用が大幅に増えました。しかし、子どもたちは成長につれ、おはなしや絵本の読み聞かせを聞くことからひとり読みへ移行し、自分で本を選んで読むようになります。子どもが本を選ぶ手助けも図書館の大きな役割のひとつです。

アンケート結果からは、子どもたちは「図書館に来ても読みたい本を探せない。もっと本を探しやすくしてほしい、おすすめの本やポップをしてほしい」と感じているようです。今後は、この子どもたちの一人ひとりを本と結びつけるために、図書館職員がフロアワーク（P.49 注 10）やブックトーク（P.49 注 11）などに、積極的に取り組みます。

さらに、季節やその時々の話題に合わせた楽しい本の展示や図書館員のおすすめメッセージを工夫して、子どもや保護者と本を結びつけるアプローチをします。

また、今後は、関係各課と連携して、上尾市で行われる子ども対象事業や郷土芸能など、上尾市を知るための本の展示を行います。

あかちゃんおはなし会の様子

クリスマス会の様子

ウ　青少年向けサービス

上尾市には現在、本館と分館（５館）、公民館図書室（３館）があります。児童書コーナーはすべての館に設けてあり、中学生・高校生対象の青少年（ＹＹ）コーナーは本館と分館に設けられています。この青少年（YY）コーナーは、来館する青少年に十分周知されていない点があり、引き続き PR に努めることに加え、今後は、青少年（YY）コーナーを公民館図書室にも設置することを検討し、質と量ともに充実させていきます。

また、図書館にはテストや受験の勉強のために、図書館学習室を利用する中高校生が見受けられます。現在はそのような子どもたちに十分な座席があるとは言えない状況です。今後、学習できるスペース（机や学習室など）を増やし、中高校生のニーズに対応できるようにします。勉強のために図書館を利用することで、自然と図書館の本に触れたり借りたりするようになり、読書の楽しさや奥深さを感じてもらうことが期待されます。

図書館利用の少ない青少年の図書館利用を促進するためのサービスに取組むほか、成長の過程においてさまざまな人生の課題に直面している年代という特性に寄り添い、テーマ別のおすすめ本の紹介リストの作成やホームページでの公開、広報紙の作成や配布などを実施しています

学校生活に忙しく、来館する時間のない中高校生のために、市内中学校と図書館をオンラインで連携するなど、より利用しやすい仕組みを検討します。

◆下の写真は、青少年向け館外活動として、図書館が実施したブックトークの様子です。西中学校の１年生を対象に、特別活動の授業としてクラスごとに実施しました。
ブックトーク終了後は、紹介した本を生徒みんなで手に取っています。感想を担当者に言ったり、本について意見交換をしたり、と有意義な時間となりました。本棚に置いてあるだけでは手に取られないような本も、本の紹介を聞くことで手に取ってみたくなります。

エ　図書利用に障害のある子どもへのサービス

さまざまな障害の特性やそれに応じた障害児用資料についての情報収集が大きな課題です。特別支援学校や障害のある児童の保護者の会などの声を聴き、児童・保護者・教職員がどのような資料・機器のサービスが必要とされているかを把握したうえで、障害児用資料などを計画的に収集することを検討していきます。

また、図書館ホームページからも障害をもつ子どもや保護者へ情報を発信するなど、利用者への周知を積極的に行っていきます。

また現在行っている筆談などによるコミュニケーションの確保、利用の際の介助、図書館資料などの郵送貸出や対面朗読、拡大読書機の利用促進や、案内施設や障害者用トイレなど、使いやすい設備の整備を進めます。

日本語を母語(P.50 注 12)としない利用者に対しては、それぞれの母語で書かれた図書資料などが必要です。まず市内に在住している日本語を母語としない人たちのニーズを把握し、それに適した資料を収集・提供するよう努めます。

２　家庭における取組

「読書アンケート」で、「どこで本を読むか」の問いに「自分の家」と答えた子どもは46.7 ㌫と最も多く、読書活動の場として家庭の役割の大きさが読み取れます。

子どもが生涯にわたる読書習慣を身につけるためには、乳幼児期から青年期に至るまで、保護者の関わり方が大変重要です。図書館が絵本や本選びのお手伝いをします。図書館や地域では子どもの年齢にあったおはなし会も多数開催されています。参加してみましょう。

●乳児期・・・声を通して初めて言葉に出合う時期です。保護者やまわりの大人たちが優しくたくさん語りかけ、一緒に絵本やわらべうたを楽しみましょう。「ブックスタート事業」で配布されたブックリストや「えほんのきろく」などを参考に、家庭で読み聞かせを行いましょう。

●幼児期・・・絵本やおはなしの楽しさに気づく時期です。まわりの大人が絵本を読んであげることが本好きな子どもを育てる第 1 歩です。多くの絵本を読んであげましょう。お子さんが、お気に入りの本は何度も読んであげましょう。

●少年期・・・「読書パスポート」を通して「本について親子で話す時間」を作りましょう。子どもの読んでいる本に保護者が関心をもち、読書していることをほめてあげてください。

●青年期・・・中学生や高校生になると、人生についてのさまざまな課題に直面し「答え」を探して模索する中で物事を深く考えることができるようになります。そこでこの時期の読書活動は量も質も共に高めていく必要があります。読書を通じてさまざまな視点や立場、想いを体感することで、大人になるということの第一歩を踏み出すことができるような読書活動につなげていくことが必要です。
また、青年期の読書活動を活発にしていくためには、周りの環境が非常に大切です。読書活動を通じた子どもの成長を温かく見守ると同時に、周りの大人も読書に積極的に親しむ姿を見せることで、よきロールモデル（模範）となることが何よりの説得力になります。

３　地域における取組

（１）幼稚園・保育所・子育て支援センター

子どもがはじめに体験する集団活動の場が幼稚園・保育所です。この時期は言葉が発達していく時期でもあり、絵本を通じて多くの言葉にふれることはたいへん有意義です。子どもは、集団で読み聞かせを聞くと、家庭で保護者に読んでもらうものとは違った楽しさを感じます。

上尾市立や私立の幼稚園・保育所では日々の保育の中で、絵本の読み聞かせや紙芝居、エプロンシアター（P．50 注 13）などが盛んに行われています。また、児童を通じて家庭に絵本を貸し出している園もあり、絵本に親しむ機会づくりに積極的に取り組んでいます。

また、幼稚園などに通う前の親子の交流の場、育児不安などの相談に応じる場として、市内には１２か所の地域子育て支援拠点施設がありますが、その中のひとつ、上尾市子育て支援センターでは子どもと保護者が本に親しむきっかけづくりの場として、絵本の読み聞かせの時間を設け、希望者に絵本の貸し出しを行っています。さらに保護者の本選びなどの相談に応じるため、子どもの読書活動支援センターとの連携を図っています。

今後も、幼稚園・保育所・子育て支援センター内のさらなる図書の充実を図り、読み聞かせや本とふれあうことができる環境作りを進めます。

また、図書館では、日ごろ図書館に来られない保護者にも本に親しんでもらえるよう、子ども向けの絵本や保護者向けの本なども取り混ぜた、「幼稚園・保育所用の本のセット」も幼稚園・保育所に配送することを検討していきます。

（２）児童館・放課後児童クラブなど

児童館・放課後児童クラブなど、子どもの生活に密着したこれらの施設でも子どもの読書活動は行われています。

市内に２館ある児童館（アッピーランド・子どもの城）にはそれぞれ図書室があり、平成２７年４月現在、アッピーランド図書室には 3,958 冊、こどもの城図書室には 4,565 冊の本があります。青少年育成推進員や読み聞かせボランティアによるおはなし会や紙芝居の上演も行われており、おはなし会に参加した子どもたちには「読書パスポート」や「えほんのきろく」にスタンプを押しています。

放課後児童クラブには本が置いてあり、子どもがいつでも読書ができる環境にあります。長期の休業中などは学校図書館も利用して本に親しみます。また、支援員による読み聞かせを行っています。図書館の読書イベントに参加している児童クラブもあります。

図書館の団体貸出を有効利用するなどして、今後も各施設で子どもが良い本を手に取る機会を増やしていきます。また図書館と連携し、さらにおはなし会などの読み聞かせの機会も増やしていきます。

青少年育成推進員の読み聞かせの様子

（３）児童文庫・自治会・読み聞かせボランティア

市内には現在、シラコバト文庫・おひさま文庫・富士見団地文庫の児童文庫があります。個人や自治会が、家庭や地域の集会所や蔵書を開放して、近所の子どもたちに本を貸し出したり、お話をして聞かせたりしています。子どもが文庫の大人たちとふれあい、読書の喜びを分かち合えることが大きな喜びとなり、子どもたちの憩いの場にもなっています。児童文庫に通ったことがきっかけとなり、本が生涯の友となる人も少なくありません。

今後も、上尾市読書活動推進事業補助金（P.50 注 14）を受けたり、図書館の団体貸出や図書のリサイクル（P.50 注 15）を有効活用するなどして、図書の充実に努めます。

また、青少年育成推進員や母子愛育班など地区役員は児童館・学校・子どもの集まる場などで、絵本や紙芝居の読み聞かせを積極的に行っています。

読み聞かせボランティアなどは、図書館をはじめ、児童館・病院・市内で読み聞かせやおはなし会を行っており、子どもたちとよい本を結びつける橋渡しとなっています。平成26 年度からはじまった全小学校での「読書パスポート」配布おはなし会や、それに伴い市内全図書館で行われるようになった「おはなし会」でも、読み聞かせボランティアは事業の担い手として活躍しています。

「読み聞かせのまち あげお」を実現するためには、地域のボランティアがこうした活動を引き続き行っていくことが必須となります。ボランティアは、これからもよりよい活動ができるよう、図書館主催のステップアップ講座に参加するなど、常に資質向上に努めます。

４　学校における取組

（１）読書活動推進の取組

学校には、児童生徒の発達段階に応じて、子どもたちが読書の幅を広げ、生涯にわたる読書習慣を身につけるため、さまざまな図書にふれる機会を確保するなど読書の機会を充実させることが求められています。また、上尾市学力調査の結果から、読書が好きな児童・生徒の方が、嫌いな児童・生徒よりも国語、算数・数学において学力が高い傾向にあることがわかっています。

市内の各小・中学校においても、校長のリーダーシップの下、学校全体で組織的に読書活動を推進しています。司書教諭が中心となり、教員、図書館支援員、学校応援団（P.50 注16）・ボランティアなどが連携・協力してそれぞれの立場から、学校図書館の機能の充実を図るよう努めています。教職員は、学校図書館を活用して、学習の充実を図るとともに、計画的な読書活動の推進、学校や家庭における読書習慣の確立など、確かな学力と豊かな心を育む取組を実施しています。

子どもの知的活動を増進し、多様な興味・関心にこたえる魅力的な学校図書館を推進するため、各学校においては、「学校図書館教育全体計画」・「学校図書館教育年間指導計画」を作成しております。これらに基づいて、授業などでも具体的、計画的な学校図書館の活用を位置づけ、全ての教育活動を通じて、児童生徒の発達の段階に応じた体系的な読書指導を行います。

各教科などにおいては、調べ学習など学校図書館の図書資料を活用した多様な学習活動が展開されています。たとえば、国語での物語教材などにおける並行読書をはじめとして、社会や理科、総合的な学習の時間における調べ学習での活用など、学習と関連させて、さまざまな分野の図書にふれる機会を増やしています。

また、学校図書館に毎日配架されている新聞を活用した実践にも取り組んでいきます。新聞を活用することは、思考力、判断力、表現力を育て、言葉の力やコミュニケーション力を育てるとともに、社会や世界への興味関心を持つきっかけとなっています。

鴨川小学校　朝読書での読み聞かせ

瓦葺小学校　「読書かるた」に挑戦しよう

（２）学校図書館の整備

学校図書館には、豊かな心をはぐくむ「読書センター」としての機能と、児童・生徒の自発的、主体的な学習活動を支援する「学習センター」・「情報センター」としての機能があります。学校図書館がこれらの機能を発揮するためには、、授業で調べ学習をするために十分な資料をそろえるなどの図書資料の整備を図ることが必要です。小・中学校においては、「学校図書館図書標準」の早期達成をめざし、計画的に図書資料の整備、充実を進めています。学校図書館が情報センターや学習センターとしての機能を十分に発揮するためにインターネットによる各種資料の検索を可能にするとともに、蔵書の管理に努めます。

また、市内小・中学校においては、全校に司書教諭が配置されています。学校図書館の整備や読書に関する行事運営などを行うために上尾市が配置しているアッピースマイル学校図書館支援員と連携しながら、環境整備や読書活動の推進に取り組んでいます。

現在、アッピースマイル学校図書館支援員は各小・中学校に一人配置されており、小学校では専任の支援員が常駐しています。アッピースマイル学校図書館支援員はこれまでに学校の授業や休み時間などに読み聞かせやブックトークなどを行ってきました。また、季節の図書展示や学校独自の推薦図書の展示やリストづくり、読書月間などにおける読書イベントの開催などにより、貸出冊数が増加しています。今後は、中学校にも常駐の支援員を置くことを要望します。

現在、支援員の資質向上のため、指導課と子どもの読書活動支援センターが協力して、アッピースマイル学校図書館支援員研修会を月1回開催し、資質向上に取り組んでいます。引き続き学校と図書館が連携を深めながら、学校の実態にあった学校図書館運営に取り組んでいきます。

今泉小学校　図書館展示

大石北小学校　図書館展示

瓦葺中学校　フリーライブラリー

（３）朝の読書をはじめとする一斉読書などの取組

教育基本法や学習指導要領では、小・中・高など学校の各学校段階において、児童・生徒の読書に親しむ態度を育成し、読書習慣を身に付けさせていくことが求められています。小・中学校においては、従来から読書活動が推進されていました。アンケート結果にもみられるとおり、子どもたちが本を読む場所として、学校や学校図書館と答える子どもたちは多く、忙しい生活の中で読書をする機会の少ない子どもでも、小中学校で本に親しんでいると考えらえます。特に、中学校２ 年生において学校で本を読む割合が高いのは、朝の読書をはじめとする一斉読書（P.50 注 17）などの取り組みが影響していると考えられます。学校は、多くの子どもたちに読書の喜びを伝えることができる大切な場所です。

現在、各小・中学校では児童・生徒の読書習慣を確立するために、朝の読書を行っています。子どもたちは朝の読書の時間に読む本を自分で選び、常に机の中に入れています。このことは、子どもたちが読書の楽しみを味わい、本を読むことへの抵抗感をなくすことにつながっています。また、なかなか本を読む時間のとれない中学生にとって朝の読書の時間は本と関われる貴重な時間です。その上、静かに読書をしてから授業に入ることで授業を聞く姿勢も培われます。

朝の読書は、活字離れの傾向に歯止めをかけ、生涯にわたる読書習慣の基礎を培うことにつながっています。今後も朝の読書をはじめとする一斉読書を充実していきます。

小学校の読み聞かせは保護者、学校応援団・ボランティアの協力のもと行われており、学校と地域を結びつけ、「読み聞かせのまち あげお」をつくる活動のひとつともなっています。子どもたちはいろいろな大人から聞く読み聞かせをとても楽しみにしています。

そのほか、全校が「子ども読書の日（４月23日）」を中心に、読書週間や読書月間を設けて読書活動の推進に取り組んでおり、さらに、読書月間における各校の取組状況や先進的な取組例の紹介、地域や保護者などへの啓発も行っていきます。今後も「子ども読書の日」を中心とし、広く子どもの読書活動についての関心と理解を深めるために、子どもが積極的に読書活動の意欲を高めるためにふさわしい事業の実施を進めていきます。

（4）「あっぴぃ ぶっくるセット本」・団体貸出本の活用

平成 25 年度から、図書館と市内小・中学校、市立幼稚園が協力して、読み物セットをすべての小中学校・市立幼稚園に長期間一括貸出する「あっぴぃ ぶっくるセット本」事業を行っています。セット本を有効活用することにより、子どもたちは常に新しい本にふれることができ、読書への興味が喚起されます。子どもたちはおよそ２か月に一度、新しい本が届くのを心待ちにしていて大変好評です。

また、読み物の本を購入するために充当した予算を、学校図書館でそろえておきたい調べ学習用の図書購入費に充てられるため、結果として市の予算の有効活用につながります。

今後、学校図書館の端末で児童に「あっぴぃ ぶっくるセット本」や市図書館の団体貸出本を児童に貸し出せるようなシステムを検討していきます。

＜あっぴぃ ぶっくるセット本とは・・・＞

●内容について

①子どもが手に取りやすい本、図書館としてぜひ読んでほしい本、科学絵本など幅広いジャンルの本を組み合わせた読み物のセット。

②小学校は低学年・中学年・高学年用それぞれ 30 冊の計 90 冊、中学校は「友情」「映画になった本」などテーマ別の 30 冊、幼稚園は季節などにちなんだ絵本 30 冊のセット。

●貸出方法について

学校をブロックごとに分け、ブロック間でセットを回送することによって、常に学校に新しい本のセットが置かれる。

また、図書館では、調べ学習などに役立つ資料をテーマごとにセットし、貸し出しを行っています。「加工食品」「昔の道具」「修学旅行」など、学校でよく使われるテーマごとに 30 冊程度を 1 セットとして希望のあった学校に届けています。

学校では「あっぴぃ ぶっくるセット本」や団体貸出本を積極的に活用し、総合学習の教材、授業の補助教材として授業に本を組み入れていきます。

５　家庭・地域・学校をつなぐ取組

（１）「まちかど図書館」

子どもの読書活動支援センター（通称：あっぴぃ ぶっくる）や AYY（あげおよむよむ）レンジャーは、図書館から外に出て、学校や保健センター、自然学習館や地域の施設など、市内の各地でおはなし会や子どもの本に関するイベントを行う、出張おはなし会を行っています。また、図書館でも、中学校や高校などでブックトークや本の紹介を行っています。

今後は、「（仮称）まちかど図書館」と称して、このようなイベントの際に紹介する本や、イベントに関連する本・参加者が興味をもちそうな本などを選んで持っていき、その場で参加者に貸し出すことを検討します。図書館に来たことがなかったり来られなかったりする子どもや保護者にもより身近な場所で図書館の機能を利用してもらえます。

また、要望に応じて障害者施設などでも、出張おはなし会や「（仮称）まちかど図書館」を開催できるようシステムを整えます。

（２）「読書パスポート」・「えほんのきろく」

「読書パスポート」事業は平成 26 年度からはじまった家庭・地域・学校をつなぐ取組です。

文字が読めるようになり、知る喜びにあふれる小学校入学児を対象に、市内全小学校でおはなし会を行い、図書カードを入れられる「読書パスポート」を配布しています。事前に図書館利用カードの作成希望を児童の保護者から募り、希望者には「読書パスポート」とおそろいの図書館利用カードをパスポート配布の際に併せて配布しています。

「読書パスポート」には図書館利用案内や、調べ学習のしかた、年齢ごとのおすすめの本の紹介などが掲載されており、読書記録やおはなし会の参加記録なども記入できるようになっています。

●家庭ではわが子の６年間の読書記録をもとに、親子で話し合う機会をもつことができます。

●図書館、児童館図書室、図書館まつりや地域のボランティアのおはなし会など、地域が協力してパスポートを活用する機会を用意しています。

●学校では「読書パスポート」を授業に役立てるほか、図書館と学校が協力して年度末に「読書パスポートコンクール」を開催し、「読書パスポート」を活用して読書活動をすすめた児童を表彰しています。

また、平成 27 年度から未就学児に「えほんのきろく」を配布しています。子どもが生まれてから「読書パスポート」をもらう小学校までの子どもと保護者の読書を支えるものです。「えほんのきろく」には、図書館や児童館、家庭児童文庫など、市内で行われるおはなし会の案内のほか、ジャンルごとのおすすめの本のリストなどが掲載されており、読書記録やおはなし会の参加記録なども記入できるようになっています。

「読書パスポート」「えほんのきろく」は子どもたちに定着してきつつあります。今後はさらに保護者や子どもの読書を支える大人たちに周知を図り、これらの事業をより活性化していきます。

読み聞かせのまち あげお をつくるために

育てます！　次代を担う子どもたちの育成 を発展！

上尾の子どもは本が大好き！

家庭

＊ブックスタートでの
　きっかけづくりを発展
＊家庭での読書記録
＊子どもの読書環境の
　整備
＊本をとおしての
　親子の対話

↓

◎読書の成果を保護者が
　認めることで、子ども
　の読書に対する気持ち
　が養われる

子ども

本を読むことが楽しくなる
自分専用の「読書パスポート」

図書館利用カード入れの
ついた「読書パスポート」！
小学生全員に配布

＊図書館利用カード・学校図書館利用カード、借りた本のレシートが入るポケット付
＊家庭・図書館・学校での読書記録を記入
＊図書館やおはなし会、本を読むと学校や家庭でもどんどんスタンプがもらえる（校長先生・担任の先生の協力！）
＊図書館の利用のしかた、おすすめの本などの情報提供
＊年１回の「読書パスポートコンクール」で成果を表彰
＊調べもの学習などへの事業発展

↓

◎子どもの読書活動センターのセンター機能により、図書館・家庭・学校・地域のすべてをコーディネートし、連携させることで、読書が好きな あげおの子どもを育成

学校

＊学校図書館での
　読書の記録
＊読書成果を先生が認め
ることで読書量の増加
＊すべての児童が使える
＊図書館支援員の活用

↓

◎「読書好き」は学力が高
　いというデータがある
◎子どもに読んでほしい
　本、調べ学習のしかたが
　わかり、読書教育に役立
　てられる

地域

＊ボランティアによる
　おはなし会、図書館
　まつりなどのイベント

↓

◎子どもと地域との
　ふれあい
◎ボランティアの活性化
◎読み聞かせのまち
　あげおの実現

図書館

＊新１年生に毎年、「出張
　おはなし会」を行い「読
　書パスポート」を配布
＊希望者にパスポートと
　おそろいの図書館利用
　カードを発行
＊スタンプがもらえるイ
　ベントの全市的な開催

↓

◎図書館利用のきっかけ
◎図書館事業への参加促進

６　推進計画

	取組	目標（平成32年度）	施策	主体
図書館	図書館の役割	豊富な「本」と児童サービスに関する「経験」で「読み聞かせのまち あげお」を支える	図書館児童室を居心地の良いフロアにするよう努める。青少年コーナーについては、友人同士など複数で気軽に来館し、滞在を楽しむことができるような仕掛けづくりをする	図書館
			児童書・児童サービスに関する県主催の専門研修（年5回開催）などに積極的に参加し常に職員のスキルアップに努める	
			良い本を子どもや保護者と結び付けることができるよう努める	
			図書館や本に興味を持てるように読書相談や読み聞かせ・読書イベントなどを行う	
			学校やほかの教育施設と連携を図り、よりよい読書環境をつくる	
	資料の充実	子どもが感性を磨き、表現力や想像力を高め、知的欲求を満たすことができる魅力ある蔵書を構築する	利用者の需要や児童向け書籍の出版状況を把握して、魅力ある資料をバランスよく収集する	図書館
			子どもの調べものや読書案内に的確に対応できるよう資料収集に努める	
			電子書籍など新たな資料について研究し、児童室での利用において紙媒体での提供より利点が多い分野について導入を検討する	

図書館	資料の充実	子どもが感性を磨き、表現力や想像力を高め、知的欲求を満たすことができる魅力ある蔵書を構築する	青少年世代が直面する人生のさまざまな課題について思索を深めたり、さまざまな切り口の読書体験を通して読書の多様性を実感できる資料を充実させる	図書館
			青少年コーナーを公民館図書室にも置き、青少年図書を質・量ともに充実させる	
	年代別サービス	乳幼児向けサービスの向上を図る	・妊婦教室などで赤ちゃんの絵本に関する啓発パンフレットを配布する ・ブックスタート事業を継続する ・「あかちゃんおはなし会」を開催する ・東保健センターを会場に、子どもの読書活動支援センターが「おやこでえほんサロン」を開催する	図書館 健康増進課
		幼児・小学生向けサービスの向上を図る	市内各館（室）で未就学児から小学生を対象とした「えほんのじかん」「おはなし会」を開催する	図書館
			子どもたち一人ひとりを本と結びつけるために、図書館職員がフロアワークやブックトークを行う	
		青少年向けサービスの向上を図る	学校に出向いて直接生徒に本の魅力を伝える、ブックトークの充実や、多様な参画の形態を工夫した青少年向けの取組を実施する	
			中学生の社会体験事業や、高校生のインターンシップの受入を実施し、図書館に対する意識を高めてもらう	
			中高生が主体的にかつ双方向のコミュニケーションを図れるような情報紙づくりや読書に関わるイベントを企画運営、参加できる仕組みをつくる	

図書館	年代別サービス	青少年向けサービスの向上を図る	市内小・中学校と図書館をオンラインで結び、生徒が学校で市立図書館の本の予約・貸し出しなどができるようにするなどを検討する	図書館
	図書利用に障害のある子どもへのサービス	図書利用にどのような障害をもつかを把握しニーズに対応した適切な支援を行う	障害児や保護者、教員が必要とする資料や機器を収集・整備し、活用を図る	図書館
			日本語を母語としない子どもたちの状況とニーズを把握、外国語の図書資料などの収集に努める	
家庭	乳児期	優しくたくさん語りかけ、一緒に絵本やわらべうたを楽しむ	・ブックスタート事業で配布されたブックリストや「えほんのきろく」などを参考に、親子で本に親しむ ・「あかちゃんおはなし会」や「おやこでえほんサロン」に参加する	家庭
	幼児期	多くの絵本を読み聞かせる 図書館の読み聞かせなどに参加する	「えほんのじかん」「おはなし会」などに参加して、集団でおはなしを聞く楽しさを味わう	
	少年期	「読書パスポート」を活用して親子で本に親しむ	・「読書パスポート」を通して、本について親子で話す時間を作る ・図書館や学校で発行する「本の紹介」などを利用してさまざまな本に出合う	
	青年期	「いつでもどこでも本が手に取れる」環境づくりを進める	・読書活動を通じた子どもの成長を温かく見守る ・大人も読書に積極的に親しむ姿を見せる	
地域	幼稚園・保育所・子育て支援センター	市立幼稚園・市立保育所・子育て支援センターの図書の充実を図る	幼稚園・保育所・子育て支援センター内の図書冊数、内容の充実を図る	幼稚園 保育所
			図書館の団体貸出・あっぴぃ　ぶっくる本、図書のリサイクルを活用し、図書の充実を図る	

地域	幼稚園・保育所・子育て支援センター	子どもが絵本に親しむ環境をつくる	日々の保育の中でさらに、絵本の読み聞かせを組み込む	図書館（子どもの読書活動支援センター） 幼稚園　保育所　子育て支援センター
			図書館職員やボランティアによる人形劇やおはなし会を取り入れる	
		保護者に対する絵本の啓発を行う	保護者へ絵本の貸し出しや、年齢に合わせた絵本の紹介を行う。 懇談会などに乳幼児期の読み聞かせの重要性についての内容を組み込み、啓発を行う	
	児童館・放課後児童クラブ	乳幼児～小学生を対象とした魅力あるおはなし会を行う	・青少年育成推進員や読み聞かせの団体などと協力し、読み聞かせやおはなし会などの事業を推進していく ・おはなし会に来た子には、「えほんのきろく」や「読書パスポート」にスタンプを押す	児童館
		子どもが読書に親しむ環境をつくる	日々の生活や遊びの中に、本を読む時間、読み聞かせの時間を設ける	放課後児童クラブ
			図書館の団体貸出・図書のリサイクルなども活用し、さらなる図書の充実を図る	
	児童文庫・自治会・読み聞かせボランティア	図書館と連携し、さらなる図書の充実を図る	子どもの読書活動推進事業費補助金の交付を受けたり、図書館の団体貸出・図書のリサイクルなども活用し、さらなる図書の充実、活動の充実を図る	児童文庫 自治会
		子どもたちとよい本を結びつける橋渡しとなる	・子どもたちによい本を紹介する ・おはなし会に来た子には、「えほんのきろく」や「読書パスポート」にスタンプを押す	読み聞かせボランティア
			図書館主催のステップアップ講座などに参加するなどして日々研さんを重ね、資質向上につとめる	

学校	学校の役割	学校図書館教育全体計画・年間指導計画の作成・充実を図る	学校図書館教育全体計画・年間指導計画の作成・内容の充実を図り、授業などでの学校図書館の活用を位置づける	学校
		新聞を活用した授業実践の充実を図る	司書教諭など研修会を通じて学校図書館に毎日配架されている新聞を活用した授業実践を取り上げ、情報交換を行い、各校での実践に生かせるようにする	
	学校図書館の整備	「学校図書館図書標準」の早期達成をめざす	・司書教諭、アッピースマイル図書館支援員が中心となり、計画的に図書資料の整備、更新、充実を図る ・学校図書室のスペース拡張の検討、書架の購入	学校 教育総務課
		司書教諭等研修会の充実を図る	学校図書館の充実のために、これまで同様に研修会を実施するとともに、研修会の内容については、更なる読書活動推進のために検討する	指導課 図書館（子どもの読書活動支援センター）
		アッピースマイル学校図書館支援員の研修会などの充実を図る	・学校図書館の充実のために、これまで同様に研修会を実施する ・研修会の内容については、子どもの読書活動支援センターと連携し、更なる読書活動推進を図る	
		各小中学校の学校図書館の一層の充実を図り、読書活動を推進するため、支援員の増員に向けて検討を進める	アッピースマイル学校図書館支援員の増員の要望を行う	
		学校図書館の掲示・各コーナーの整備・充実を図る	司書教諭やアッピースマイル学校図書館支援員が中心となり、学校図書館の掲示や新聞の活用、新刊や季節の本の展示コーナーなどの環境の整備・充実を図る	学校

学校	学校図書館の整備	さらなる学校図書館の情報化を図る	市立図書館の蔵書検索が学校図書館管理システムで可能となるか検討する	教育総務課
		長期休業中の学校図書館の開放・活用を図る	夏季休業日においては、全校で、開館日数を 20 日以上としており、取組内容を充実させることにより、さらに利用率を高める 冬季休業中においても学校の実情に合わせて、利用率を高める	学校
	読書活動の取組	朝の読書をはじめとする一斉読書や読み聞かせを充実する	引き続き、全校一斉読書活動を実施する 中学校にも小学校での読み聞かせやブックトークなどを紹介し、取組を推進する	学校
		「子ども読書の日」に関わる取組の充実・周知を図る	引き続き、司書教諭やアッピースマイル学校図書館支援員を中心に、研修会などでそれぞれの学校の取組を紹介しながら、取組を充実するとともに、保護者への「子ども読書の日」を周知する	
		「学校応援団」・ボランティアの活用を図る	司書教諭等研修会を通じて、情報交換を行い、各校の実践に生かす	
	あっぴぃ　ぶっくるセット本・団体貸出本の利用	図書館と市内小・中学校、市立幼稚園が協力して、市図書館所蔵の読み物セットをすべての小中学校・市立幼稚園に長期間一括貸出する「あっぴぃ　ぶっくるセット本」事業を行う	事業の円滑な運用を目指す	図書館（子どもの読書活動支援センター） 学校　学校図書館
			市立保育所で同事業を行うことを検討する	

家庭・地域・学校をつなぐ取組	まちかど図書館	出張おはなし会や出張読書イベントの際に、関連する本を持っていきその場で貸し出しを行う	図書館に来たことがなかったり来られなかったりする子どもや保護者にもより身近な場所で図書館の機能を利用してもらう	図書館（子どもの読書活動支援センター）
	「読書パスポート」・「えほんのきろく」	「読書パスポート」「えほんのきろく」を家庭で活用し、親子で本についての会話を広げる	活用方法について、保護者へ周知する	図書館（子どもの読書活動支援センター） 学校
			「読書パスポート」「えほんのきろく」を通して、親子で本について、会話する時間をつくってもらうよう工夫する	
		「読書パスポート」「えほんのきろく」を地域で活用し、上尾の読書推進につとめ「読み聞かせのまち　あげお」をつくる	活用方法について、地域へ周知する	図書館（子どもの読書活動支援センター） 児童館　児童文庫　青少年課　読み聞かせボランティア
			「読書パスポート」の中の「宝島スタンプラリー」にスタンプが押せる機会をたくさん用意する	
			図書館、児童館、児童文庫、青少年育成団体、放課後児童クラブなどに活用の場を設ける	
			読み聞かせボランティアの協力で地域で出張おはなし会を開催する	
		・「読書パスポート」を学校で活用し、学校での読書活動を活発化させる ・「読書パスポー」トをとおして学校と図書館の連携を強化する	図書館、学校、アッピースマイル学校図書館支援員、読み聞かせボランティアが連携して、「読書パスポート」配布おはなし会を　市内全小学校で開催し、PRにつとめる	図書館（子どもの読書活動支援センター） 学校　学校図書館　読み聞かせボランティア
			子どもの読書活動支援センターや読み聞かせボランティアによる学校への出張おはなし会の開催	
			「読書パスポートコンクール」へ参加する	

家庭・地域・学校をつなぐ取組	「読書パスポート」・「えほんのきろく」	「えほんのきろく」を活用し、幼い時期から読書に親しむ習慣をつける	図書館・児童館・児童文庫などの読書イベントで未就学児に「えほんのきろく」を配布し、「ぷち宝島スタンプラリー」にスタンプを押す	図書館（子どもの読書活動支援センター） 児童館　児童文庫　読み聞かせボランティア
			図書館のおはなし会や地域のおはなし会で「えほんであそぼ！」の絵本を紹介する	

資　料　編

1　子ども読書活動優秀実践校・団体　文部科学大臣表彰

文部科学省では子どもの読書活動の推進のために特に優秀な実践を行っている学校、図書館、団体（個人）を対象に、毎年文部科学大臣表彰を行っています。市内における被表彰校・団体は下記のとおりです。

学校

年度	学校	内容
平成 15 年度	上尾市立上尾小学校	地域の本好きのボランティアを中心に「読み聞かせボランティア」を結成し、1～3 学年に毎週1回放課後に読み聞かせを行った。また低学年と高学年の「ペア読書」などの特色ある取組を行った。
平成 18 年度	上尾市立瓦葺中学校	毎日の朝読書・全教師による読み聞かせなど生徒の生活に本を位置づけ読書活動の推進に取り組んだ。また、図書室に畳スペースの設置・図書委員や教師のお薦めリストの作成・リーディングフェスタの実施など学校図書館の利用促進に努めた。
平成 23 年度	上尾市立富士見小学校	読書タイムを設定し、教員、ボランティア等による読み聞かせや給食の時間の放送による読み聞かせを継続して行った。ボランティアによる朗読劇や読書月間に学年の発達段階に応じたリスト「富士見っ子お勧めの本」を配布するなどして子供の意欲を高めている。
平成 26 年度	上尾市立鴨川小学校	「読み聞かせ」や「ペア読書」等、読書タイムの取組を工夫するとともに、メダルの配布や読書貯金により、日頃から読書活動の推進に取り組んだ。 1カ月間の「鴨川小読書月間」や「読書かるた」「読書標語」など特色ある取組を行った。また、上尾市図書館や子どもの読書活動支援センターとの連携を積極的に行った。
平成 27 年度	上尾市立大石南中学校	毎日の図書館開館や全校一斉読書等の取組により、日頃から読書活動の推進を図った。また、図書委員によるリーディングフェスタや貸出数の集計・紹介・表彰、フリーライブラリーの設置などにより、意欲の向上を図った。

団体

年度	団体	内容
平成 23 年度	上尾おはなしの会	昭和 56 年の結成以来、長年にわたり、市内の図書館、学校等で質の高いストーリーテリングや読み聞かせを行うことで、子どもたちにお話の楽しさを伝えるとともに、子どもの読書推進に大きく貢献している。

２　【用語解説】

注１：学校図書館図書標準　P.3

公立義務教育諸学校の学校図書館に整備すべき蔵書の標準として、文部科学省が平成５年３月に定めたもの。

注２：アッピースマイル学校図書館支援員　P.3

学校図書館法に掲げられた学校図書館の運営に関する事項に従事することにより、司書教諭または学校図書館業務を担当する教員の職務を補佐する職員。学習に関係する資料の準備や読み聞かせ、台帳の管理、図書の整理や選書、環境整備や広報活動などを行う。

注３：ブックスタート事業 P.5

４か月児健診の際に、赤ちゃんと保護者に絵本を手渡す事業。絵本を通して、赤ちゃんと保護者がゆっくりと向き合い、心ふれあう時間をつくることを目的としている。

注４：青少年（ＹＹ）コーナー　P.6

青少年サービスとは、中高校生など、児童と成人の中間に位置する年齢層への図書館サービスのこと。上尾市においては、青少年サービスの対象年齢を 13～19 歳としている。上尾市では、平成６年にサービスを充実させるために、一般書、児童書から独立したコーナー『YY（ワイワイ）コーナー』を設置し、青少年向けの蔵書の取集、提供を実施している。
名前の由来は、ヤングのＹをつなげて YY（わいわい）とし、「みんなでワイワイ楽しく来て本を借りてね」という願いを込めて名づけている。

注５：団体貸出　P.8

学校、保育所、幼稚園や福祉施設や市内に住所を有する読み聞かせ団体、家庭文庫を対象に、長期間（１ヵ月間）貸し出しをする。貸し出し冊数は開架の資料は 50 冊まで、閉架書庫の資料は 300 冊まで、合計 300 冊以内としている。

注６：「子ども読書の日」　P.9

「子どもの読書活動推進に関する法律」のなかで制定された。子どもたちがいろいろな本と出会うきっかけを演出するために、この日の前後には、図書館や公民館、学校などでさまざまな催しを行っている。

注７：あっぴぃ ぶっくる　P.14

「子どもの読書活動支援センター」が平成 24 年７月２日に富士見小学校図書館内にオープンしたことを記念して市民に親しまれる施設愛称と、マスコットキャラクター案を募集した。その結果、施設愛称は中学生以上の応募作 25 点の中から、中学生が応募した「あっぴぃ ぶっくる」が選ばれた。また、マスコットキャラクターは小学生以下の子どもたちからの応募作 306 点の中から「ブッピー」が選ばれた。

注８：ＡＹＹ（あげおよむよむ）レンジャー　P.16

子どもの読書活動支援センターが、「読み聞かせのまち あげお」をつくるために育成した読み聞かせのボランティアの総称。市内のあちこちに出張して活動するボランティアで、読み聞かせのほか、科学あそびと絵本のグループ、アニマシオンや朗読を行うボランティアなどがある。

注９：アニマシオン　P.16

スペインのモンセラット・サルト氏らが開発した、子どもが生まれながらに持っている読む力を引き出そうと開発・体系化した読書指導法。

注 10：フロアワーク　P.21

職員が書架の間をめぐり、子どもと接して本と結びつける読書支援をいう。子どもはカウンターの中よりフロアにいる館員の方が質問しやすく、館員としても子どもたちからの気配やサインを感じ取りやすくなる。また、子どもと一緒に本を探すことにより子どもの目が加わり、見過ごしていた本や欠けている分野が見えてくる。

注 11：ブックトーク　P.21

一般には、狭い意味で図書館や学校で司書らが行うブックトークをさす。これはある一つのテーマにそって、数冊の本を上手に順序よく紹介することをいう。広い意味では、文字通り本につ

いて話をすることをさす。自分の読んだ本を友人に薦めたり、図書館で司書が子どもにおもしろい本を薦めることもブックトークといえる。

注 12：母語　P.23

生後数年間のうちに、話者が生活環境のなかで自然に身につけた第一言語を言う。赤ん坊の身辺でいちばん、関わり合いが多かった人びとから受け継いだ言語。他方、「母国語」とは、話者が国籍を持つ国で、「公用語」または「国語」とされている言語である。

注 13：エプロンシアター　P.24

エプロンを舞台にして、ポケットから人形を出しながらエプロンに貼っていきお話をすすめる人形劇。

注 14：上尾市読書活動推進事業費補助金　P.25

「地域児童文庫」や、地域で子どもの読書活動を行っている団体の事業に交付する市補助金。補助金の額は、補助の対象となる経費と２万 5,000 円（児童文庫が年間 100 日以上開所している場合にあっては、５万円）とを比較していずれか少ない額。

注 15：図書のリサイクル　P.25

除籍資料のうち再利用可能なものを希望者に提供すること。

注 16：学校応援団　P.26

学校における学習活動、安心・安全確保、環境整備などについてボランティアとして協力・支援を行う保護者・地域住民による活動組織。

注 17：朝の読書をはじめとする一斉読書　P.28

各小・中学校においては、主に始業前の時間を使って１０～１５分程度の読書の時間を実施している。多くの学校では、全校の児童・生徒が一斉に、自分で選んだすきな本を持参し、児童生徒も先生も一緒に読むという取組を行っている。落ち着いた雰囲気で１時間目が開始できることにもつながっている。

３　アンケート結果から見る子どもの読書活動の現状

「第２次上尾市子どもの読書活動推進計画」を策定するための基礎資料とするため、読書離れが懸念されている小学校高学年、中学生、高校生を対象に、以下の各校から１クラスにご協力をいただき、「読書アンケート」を行いました。

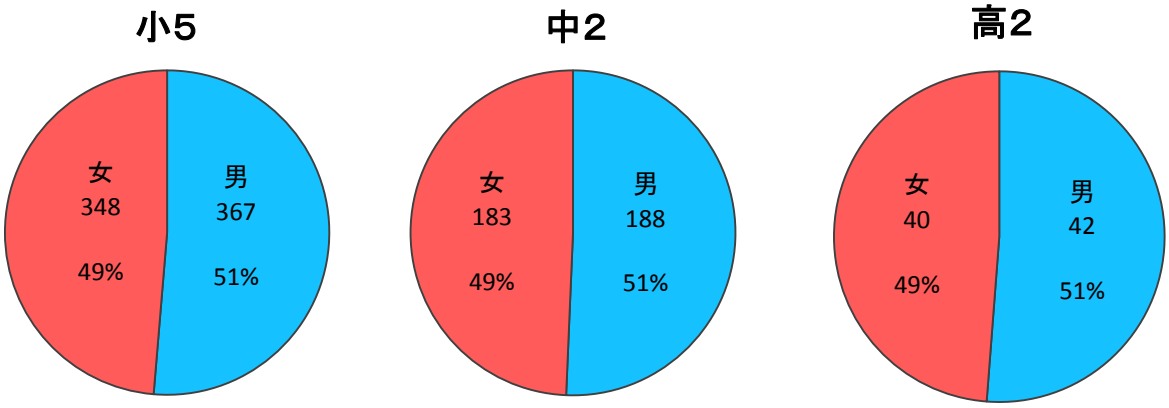
調査の概要、質問および回答内容は以下のとおりです。

●調査時期　平成 27 年７月

●調査対象　以下の通り

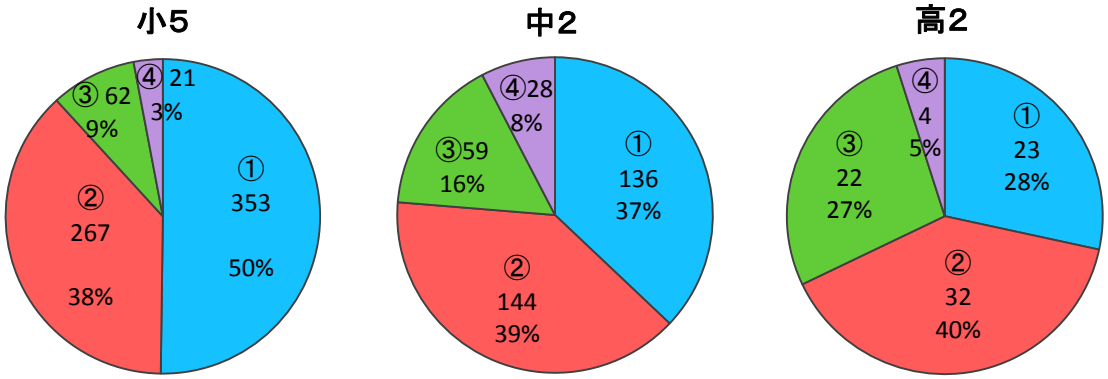
調査対象	対象学年	男	女	回答総数
小学校 （22 校）	５年生 各１クラス	367	348	715
中学校 （１１校）	２年生 各１クラス	188	183	371
高等学校 （２校）	２年生 各１クラス	42	40	82
合計		597	571	1168

１．あなたの性別は？



2．あなたは本を読むことが好きですか

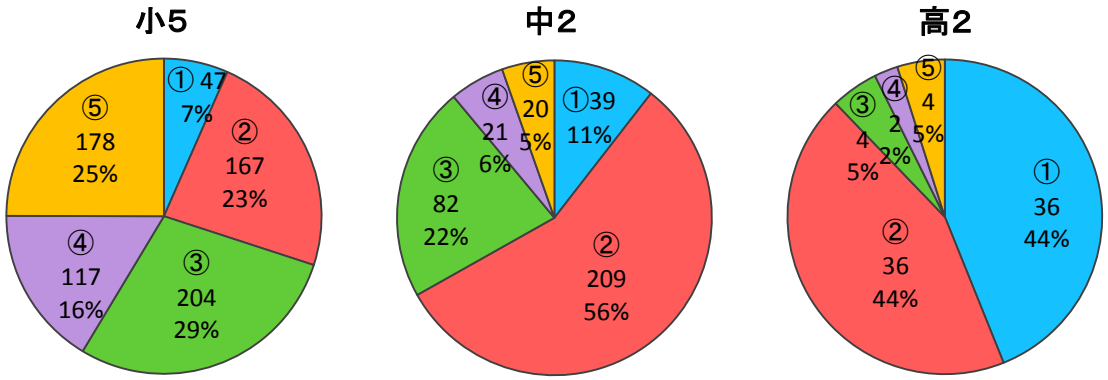
①　好き　　②　どちらかといえば好き　③　どちらかといえば嫌い　　④　嫌い



本を読むことが好きかについては、本を読むことを①「好き」・②「どちらかといえば好き」と答えた児童・生徒の割合は小学5年生で88%、中学2年生で76%、高校2年生でも68%と、年齢が上がるにつれて低くなってはいますが、概ね高い割合を示しています。

3．あなたは5月に本を何冊読みましたか（マンガ・雑誌・ケータイ小説を除く）

①　0冊　②　1～2冊　③　3～5冊　④　6～9冊　⑤　１０冊以上



ひと月に本を読む冊数については、３ 冊以上本を読んでいる児童・生徒の割合は、小学5年生が70%、中学２年生が33%、高校2 年生が12%となっています。年齢が上がるにつれて1冊の本の文字数が増え、読むのに要する時間が比較的長くなることの影響も考えられますが、一方で①「0 冊」という回答が、それぞれ7%、11%、44%であり、年齢が上がるにつれ、本を読まなくなる子どもが増えることが伺えます。

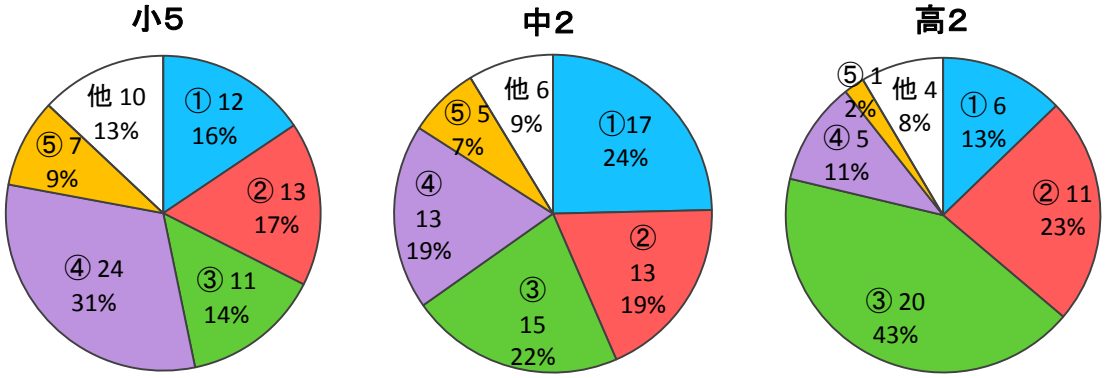
4．上の質問で、①「0冊」と答えた人に聞きます。読まなかったのはなぜですか（あてはまるものすべてに○をつけてください）

① 本が好きではないから　② 読みたい本・おもしろい本がないから

③ 勉強や習いごと、部活動などが忙しいから

④ テレビやゲームなど遊びのほうが楽しいから

⑤ インターネットのほうが便利だから　⑥ その他



5．あなたが本を読むのはどうしてですか（あてはまるものすべてに○をつけてください）

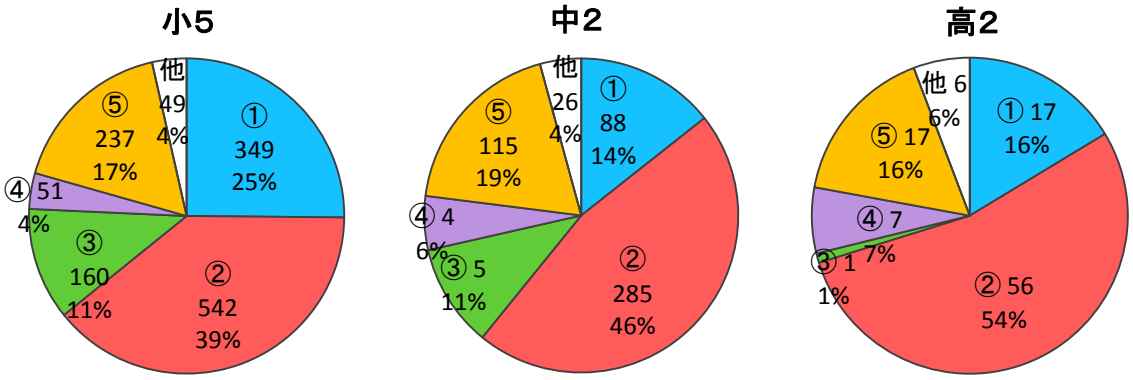
① 知らないことがわかったり、勉強に役立ったりするから

② おもしろいから、楽しいから

③ 読んだ本について、友だちと話ができるから

④ 先生や家族に「本を読みなさい」と言われるから

⑤ 時間があったから　⑥ その他

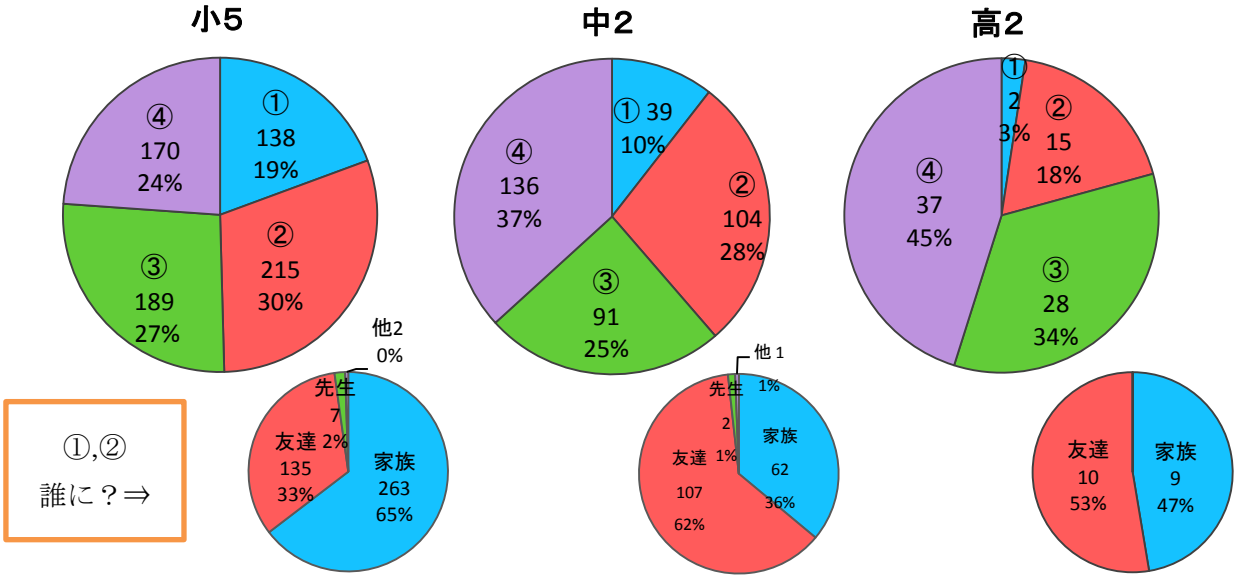


どの学年でも②「おもしろいから、楽しいから」との回答がいちばん多く、その割合は、小学５年生が 39%、中学２年生が 48%、高校２ 年生が 54%と、年齢が上がるにつれて高くなっています。本を「おもしろい、楽しい」と感じて読む子どもが多いことがわかります。

6．あなたは家族や友だち、先生などと読んだ本の内容について話をすることがありますか

① よくある(誰に？⇒　　)　②たまにある(誰に？⇒　　)

③ あまりない　④ ない



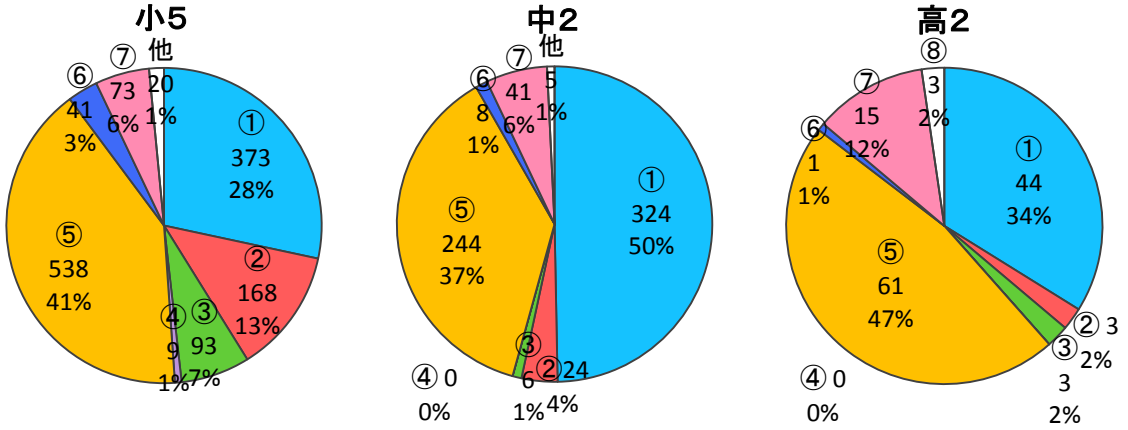
7．あなたは本をどこで読むことが多いですか（多いものに２つだけ〇をつけてください）

① 教室（読書の時間や休み時間など）　② 学校の図書館（図書室）

③ 市の図書館　④ 児童館

⑤ 自分の家　⑥ レストランや喫茶店など

⑦ 移動途中（電車やバスの中、駅など）や塾など　⑧ その他



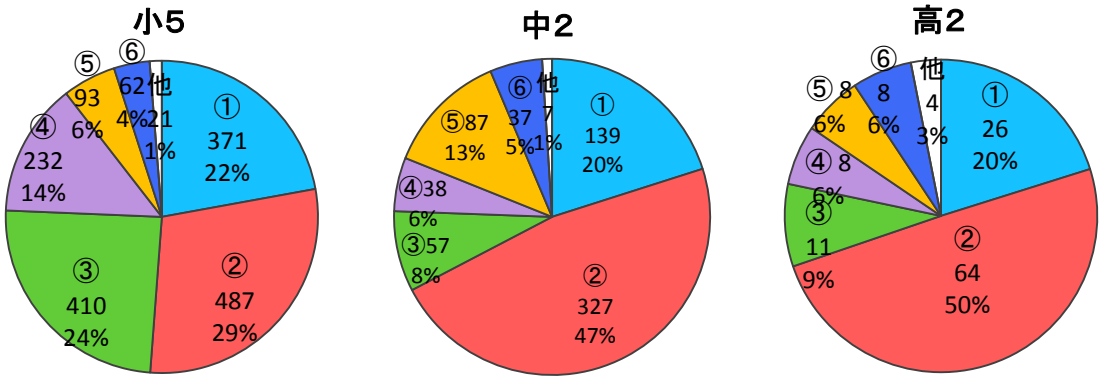
読書を行う場所については、どの学年でも、自分の家や学校などが多くなっています。特に、中学校2 年生において学校で本を読む割合が高いのは、朝の読書などの取り組みが影響していると考えられます。また、どの学年も市立図書館で本を読む割合が低くなっています。

8．あなたは読みたい本をどのようにして手にいれますか（あてはまるものすべてに〇をつけてください）

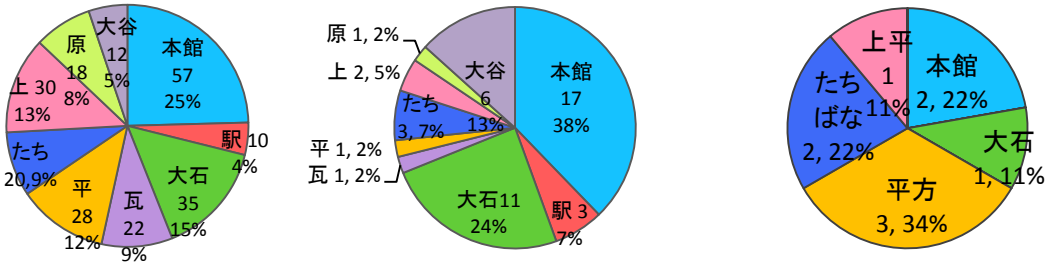
① 家にある本を読む　② 本屋で買う　③ 学校の図書館（図書室）で借りる

④ 市の図書館（どこで？⇒本館・駅前分館・大石分館・瓦葺分館・平方分館・たちばな分館・上平公民館図書室・原市公民館図書室・大谷公民館図書室）

⑤ 友だちから借りる　⑥ スマートフォンなどで、電子書籍を読む　⑦ その他



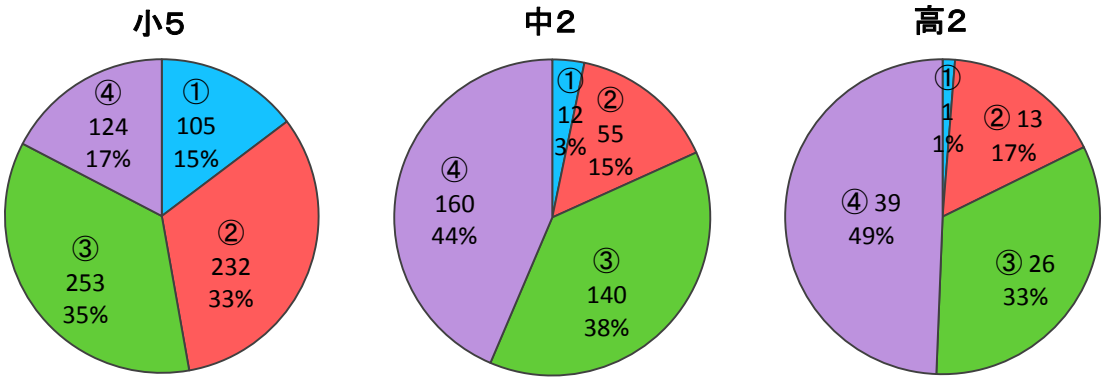
④
どこで？⇒



本の入手先については、学校図書館や市立図書館を利用する割合は小学5年生は38%、中学2年生と高校2年生ではそれぞれ14%、15%と、中高校生は図書館で本を借りなくなっていることが伺えます。一方で、中高校生は本屋で買う割合が5割程度と高くなります。また、中学校2 年生では、友人から借りる割合も他の学年に比べて高くなっています。

9．あなたは市の図書館に行きますか

① よく行く　② たまに行く　③ あまり行かない　④ 行かない

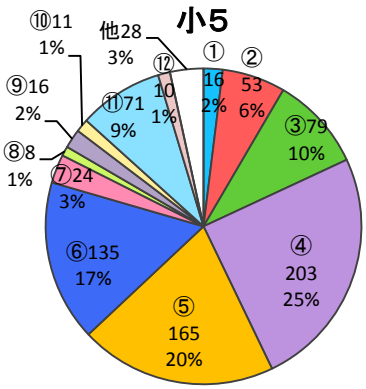


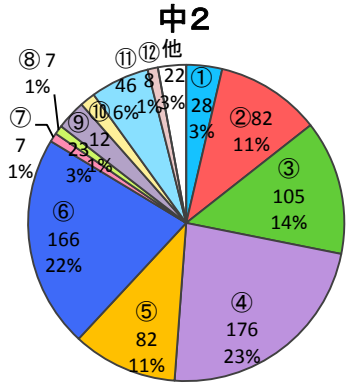
市立図書館の利用については、小学5年生は①「よく行く」②「たまに行く」を合わせると5割近くが利用しています。問７．の回答と考え合わせると「図書館で本は読まないが、本を借りたりなどしている」子どもの多いことが伺えます。

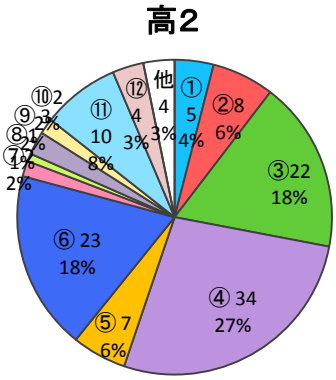
中高校生の利用傾向はほぼ同じで、どちらも利用が少なくなっています。

１０．上の質問で、③「あまり行かない」、④「行かない」と答えた人に聞きます。なぜ行かないのですか（あてはまるものすべてに○をつけてください）

① 本を読みたくないから
② 読みたい本が置いてないから
③ 他のことをしたいから
④ 行く時間がないから
⑤ 家や学校にある本を読むから
⑥ 買った本を読むから
⑦ 他に本を借りに行くところがあるから
⑧ 利用のしかたがわからないから
⑨ インターネットで用がすむから
⑩ 図書館が入りにくいから
⑪ 家の近くに図書館がないから
⑫ 図書館の開館時間が短いから
⑬ その他







⑬その他　回答　（人数の記名のないものは各１人）

図書館にいくのが面倒　13人

図書館が遠い　12人

図書館のイメージ　8人

（どこにどんな本があるかわからない、静かすぎる、人ごみが嫌い、本が古い・汚い、読みたい本がない等）

行く時間がない　7人

他に借りるところがある　3人

なんとなく行っていない　2人

夏休み、冬休みに行くことになっている

インターネットで予約した本を母が借り、返却しに行く

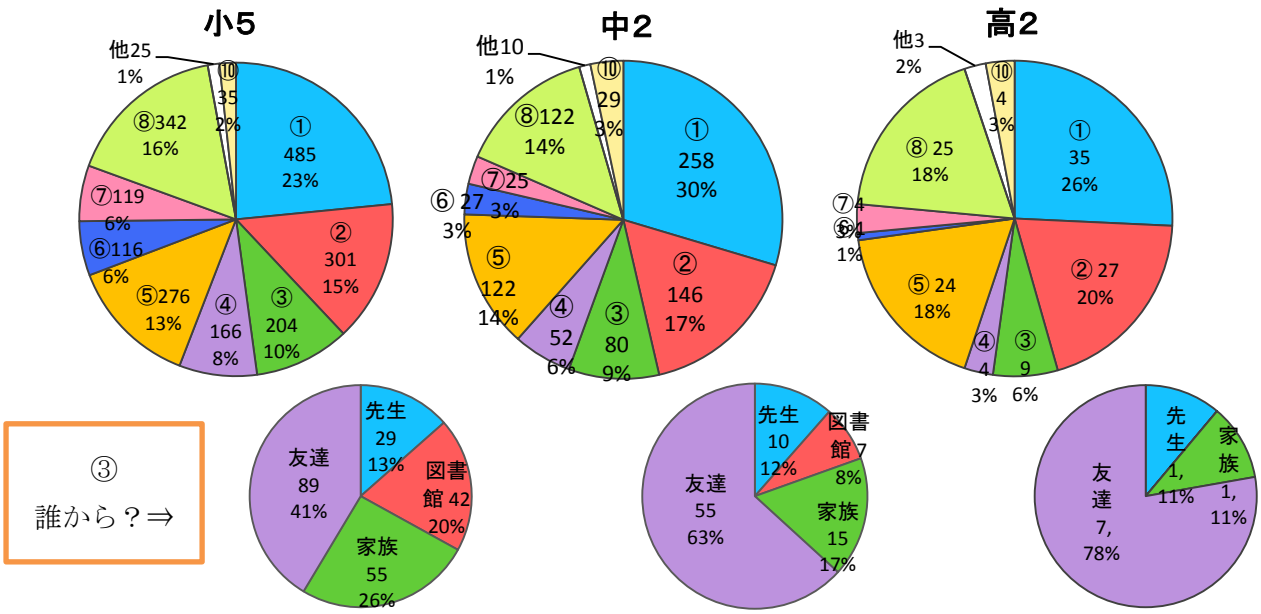
図書館に興味がない

本を読むのが好きではない

市立図書館に行かない理由については、どの学年でも④「行く時間がないから」が最も多く、⑥「買った本を読むから」が高い割合を示しています。さらに、小学5年生では⑥「家や学校にある本を読むから」も高い割合を示しています。

１１．あなたがもっと本を読むようになるためには、何が必要だと思いますか（あてはまるものすべてに〇をつけてください）

① 読みたくなるような本がたくさんあれば、自分はもっと本好きになると思う
② 読みたい本をうまくさがせたら、自分はもっと読むと思う
③ 読みたくなるような本を誰かが紹介してくれたら、自分はもっと読むと思う
（誰から紹介してもらいたい？⇒ ①先生 ②図書館の人 ③家族 ④友だち）
④ おすすめの本のリストがあれば、自分はもっと読むと思う
⑤ 学校で「読書の時間」が多くなれば、自分はもっと読むと思う
⑥ 「読書手帳」や「スタンプラリー」など何か目標があれば、自分はもっと読むと思う
⑦ 本を読むことが楽しくなるような講座やイベントがあったら、自分はもっと読むと思う
⑧ ゆったりと本を選んだり、読んだりする場所があれば、自分はもっと読むと思う
⑨ その他 ⑩ 特にない



⑨その他　（人数の記名のないものは各１人）

本を読む時間があれば　１２人

本や電子書籍を買うお金があれば　2人

疑問があれば

本を読むスピードが速くなれば

自分が読もうという気になれば

みんなで楽しく本を読むスペースがあれば

静かな場所があれば

夜でも読めるよう本自体が発光すれば

自分がもっと本を読むようになるために必要なことについては、どの学年でも、①「読みたくなるような本がもっとたくさんあれば」の割合が最も高く、次いで、②「読みたい本をうまく探せたら」の割合が高くなっています。また、⑤「学校で『読書の時間』が多くなれば」や⑧「ゆったりと本を選んだり、読んだりする場所があれば」も多くなっていることから、どの学年も、本を読むための時間や場所が足りないと考えていることが伺えます。

１２．市の図書館の「ここが足りない！」「こうしたらもっと良くなる！」と思うところがあったら自由に書いてください（人数の記名のないものは各１人）

＜本の充実について＞

本や本の種類を増やしてほしい（63 人）
新しい本・最新本を増やしてほしい（31 人）
同じ本を２冊以上置くといいと思う　（5 人）
有名な作家の本　（2 人）
図書館でしか見れない特別な本・珍しい本を置く　（３人）
今話題の本を増やしてほしい
子どもにも読めそうな大人の本があったらいい

＜本のジャンルなど＞

青少年が楽しめる本を増やしてほしい　（51 人）
特定のジャンルなどの本を増やしてほしい＜以下　ジャンルなど＞

児童向け【概ね 0～12 歳】

・学習マンガ（歴史や伝記を含む）　６　　・文庫本　５
・こわい本、ミステリーの本　４　　・スポーツ（スポーツ選手の小説を含む）　４
・ジュニア文庫、角川つばさ文庫、みらい文庫、青い鳥文庫など　３
・天体、動物、図鑑、ノンフィクションの本（小説を含む）　４
・小説　３　　・冒険小説　２　　・ゲーム　２　　・手芸・料理　２
・ディズニーの本　　・ほねほねザウルス
・ひみつシリーズ　　・黒魔女さんシリーズ　　・サバイバルシリーズ

青少年【概ね 13～19 歳】

・ボーカロイド小説　３　　・ドラマや映画の原作　３　・ライトノベル　４
・少女マンガ　　・ケータイ小説　・仕事の本
・メディアワークス文庫　・ムー

＜本の置き方・展示のしかたなど＞

●本を探しやすくする

本をシリーズごと、種類ごとに分け、見つかりやすくする（21 人）
対象年齢別に本をまとめる（5 人）
もっと探しやすくしてほしい　（6 人）
見出しがもっと増えればいい
本の場所がわかる表のようなものがあるといい
本がどこにあるかを詳しく表示したほうがいい
青少年向けの本が奥に置いてあり、何の種類か書いていないので表示して欲しい
新しい本がわかるようにしてほしい

●おすすめ本の展示など

オススメコーナーを作る　（15 人）

本のランキングをつくり、目立つ場所におく　（3 人）

入り口を入ってすぐのところにおすすめの本を置く

〇〇をやっている人におすすめ！とかを出してほしい

●ポップや表示方法

人気の本はカウンターの近くにあったり、ポップがあるといい

ポップやおすすめや今人気の本などをやってほしい

もっと本のジャンルを大きく表示する

「女子高生向け！」みたいなのを貼る

●その他

本の修理をしてほしい

本の衛生管理をする　2

＜本の検索について＞

本を検索できるパソコンを増やしてほしい　3

本を検索できるパソコンの使い方をもっと簡単にするといい

題名を覚えてなくても内容で探したい本が見つかるといい

本の案内人がいればみんな本を探しやすいと思う

＜読む場所などへの希望＞

本を読むスペースがもっとあればいい　（29 人）

勉強するスペースも作ってほしい　（2 人）

個人スペースがほしい

調べ学習できる机が足りない

小さい子・青少年・大人用と分けてゆったり静かに読めるスペースがほしい　2

うるさい子に注意する（2 人）

小さい子が読む（あそぶ）場所を作った方がよくなる

＜図書館の開館時間や雰囲気など＞

開館時間を長くしたほうがいい　（12 人）

もっときれいで明るい雰囲気（入口、館内）になってほしい　（9 人）

図書館がもっと家の近くにあったらいい　（7 人）

図書館をもっと大きくしてほしい　（6 人）

毎日開館してほしい　（3人）

落ち着いて静かな図書館　（3 人）

返却の日をのばしてほしい　（2人）

ゆったり系（クラシックなど）の音楽を小さな音で流す　（２人）
売店を作っていろんな本を買えるようにするといい
レストランみたいに食べながら読めるところがほしい
もっといいところで本を読めるようになったら嬉しい
いつでも快適な温度

＜リクエスト・予約など＞
本のリクエスト募集をし、リクエストにこたえる　（４人）
インターネットで本を予約すると家に配達してくれるとよい　（２人）
予約の本がすぐに来てくれたら嬉しい
本を借りたいときにカウンターにあるといい
すぐに欲しい本を持ってきてくれる

＜イベントなど＞
イベントを増やす　（11 人）
スタンプラリーをしたらいい　（４人）
本を読んだら賞品がでるといい　（４人）
本を紹介するイベントがあればいい　（２人）
紙芝居をやってほしい　（２人）
もっと読み聞かせがあるといい
おはなし会でもおもしろい本を読んでほしい
小学校低学年以下が好きそうなクイズ、なぞなぞを増やす

＜図書館職員に対して＞
困ってる人がいたら、わかりやすく教えてくれるといいい
親切さが足りない
小さい子が１人で来たとき、〇〇シリーズが読みたいというとき、どこにあるかを教えてあげること
ずっとカウンターのところにいてどこに本があるか聞きづらいから本の近くにいてほしい
もっと笑顔になってほしい
本を見ているときに、図書館の人が「この本は・・・」と説明やおすすめをしてくれたらいい
広告を配る
毎月、市で図書館だよりを発行する

＜本を好きになるためなど＞
みんなが本を楽しく読めるようになるために工夫をしたらいい　（５人）
図書館の紹介カードを自分で書くことができるようになるといい

＜図書館の設備への希望＞

貸出機が増えたら本を借りるのに並ばなくて済む　（２人）

インターネットが使えるパソコンを増やしてほしい　（２人）

映画を置いてほしい

DVD を借りたらその場で見られるようにする

ゲームをできるようにする

図書館で本を購入できるようにする

＜館ごとへの希望＞

駅前分館には、子ども向けの本が絵本しかないから他の本も置いてほしい　（２人）

瓦葺分館のおはなし会に来る人が少なくてさみしい　（２人）

瓦葺分館でのイベントを増やしてほしい

たちばな分館には青少年向きの本が１列しかない！もっと増やしてほしい！

今のままで満足　（６人）

～読み聞かせのまち あげお～

あげお子ども読書プラン

《第２次上尾市子どもの読書活動推進計画》

平成 28 年（2016 年）３月
発行：上尾市教育委員会